

# 通級による指導実践事例集

## (中学校・高等学校)

## はじめに

大阪府では、これまでも、すべての幼児児童生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育を基本に、一人ひとりの障がいの状況に応じた教育を進め、その可能性を最大限に伸ばすことを大切に取り組んできました。

国においても、インクルーシブ教育システムの構築をめざし、連続性のある「多様な学びの場」の整備が重要と示されました。これに伴い、平成 29 年度より、小・中学校における通級による指導担当教員の基礎定数化が図られ、平成 30 年度からは、高等学校における通級による指導が制度化されました。このような流れの中で、通級による指導にはますます大きな期待が寄せられ、担当する教員の専門性の更なる充実が求められています。

本府では、平成 30 年度から二年間、文部科学省事業「発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業」を受託し、中学校と高等学校での通級による指導における自立活動に相当する指導について、そのノウハウを蓄積し、生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた多様な指導計画や指導方法を研究してきました。本研究をとおして、通級による指導担当教員が専門性を発揮しながら、通常の学級の担任等と連携して組織的な指導を進めるだけでなく、発達障がい等の特性のある生徒が将来の社会的自立に向けて、自己理解を深めながら主体的に考え、取り組むことの重要性を改めて認識しているところです。

本冊子は、中学校、高等学校の各拠点校において取り組んだ通級による指導の実践をまとめたものです。各学校園における通級指導教室の充実のためにご活用いただければ幸いです。

令和 2 年 3 月 大阪府教育庁 教育振興室 支援教育課長

通級による指導実践事例 【事例のみかた】

個別の指導計画における短期目標	学年 通級による指導の対象生徒の状況	
通級指導開始時における生徒の状況		
関連する自立活動の内容	区分	内容
本事例のキーワード	この指導に関連する自立活動の区分・項目など	



【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 ★この段階における到達目標 ・指導開始時の学習内容	・指導上の工夫やてだて ・通常の学級との連携	・第一段階での生徒の様子 ・通級による指導担当者の気づき
			【第二段階に向けて】 次の段階にステップアップするためのてだてなど
第二段階	第二段階の目標 ★この段階における到達目標 第一段階の様子等をふまえた学習内容	・指導上の工夫やてだて ・通常の学級との連携	・第二段階での生徒の様子 ・通級による指導担当者の気づき
			【第三段階に向けて】 次の段階にステップアップするためのてだてなど
第三段階	第三段階の目標 ★この段階における到達目標 第二段階の様子等をふまえた学習内容	・指導上の工夫やてだて ・通常の学級との連携	・第三段階での生徒の様子 ・通級による指導担当者の気づき



【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>★通級による指導を受けたことによる本人の変化 (本人のスキルアップ)</li> <li>★通常の学級での生徒の変容 (通級による指導の成果が感じられた場面や周りの反応等)</li> </ul>
---

通級による指導実践事例  
(中学校編)



中学校編 もくじ

番号	「個別の指導計画」の目標	キーワード	自立活動の区分
No.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・限定的な思考にならず、物事に折り合いをつけることができる</li> </ul>	行動の分類 感情の理解 感情と認知の関係性の理解	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・限定的な思考に陥らず、物事に折り合いをつけることができる</li> </ul>	自己理解 アンガーマネジメント 相談するスキル	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級で授業を落ち着いて受けることができる</li> <li>・授業などで苦手なことや困ったことがあったとき、どうしたらよいかを考えることができる</li> </ul>	衝動性 トークンエコノミー 社会性	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が悩んでいることや困っていることを何らかの方法で人に伝える</li> </ul>	場面緘黙 不安 緊張 社会性	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不得意な学習課題に取り組み、日常の学習意欲を維持することができる</li> <li>・学習内容について、わからないことを質問することができる</li> </ul>	ADHD 学習困難 自己肯定感	心理的な安定 コミュニケーション
No.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちや状況を言語で表現することができる</li> <li>・日常の生活をふりかえり、自己理解を進めることができる</li> </ul>	ふりかえり 感情のコントロール コミック会話 ストレスマネジメント リラクゼーション	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思ったことや感じたことを言葉で説明することができる</li> <li>・視覚支援の教材を使用し、英語に関しての前向きな学習の姿勢を身につける</li> </ul>	視覚支援 操作活動	心理的な安定 コミュニケーション
No.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思ったことや感じたことを言葉で伝えることができる</li> <li>・わかった、できたという経験を増やしていく</li> </ul>	自己理解 自己表出 対人スキル	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション

## 通級による指導実践事例 中学校 No. 1

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・限定的な思考にならず、物事に折り合いをつけることができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 1年	指導時期	4月～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場や思いを想像して行動したり発言したりすることが難しい</li> <li>・社会性やコミュニケーションにおいて困難さがある</li> <li>・自己中心的な思考になりやすく、切り替えが難しい</li> <li>・見通しが持てない状況からくる不安によってストレスを感じやすく、感情的な発言や行動を起こしてしまう</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応に関すること	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整に関すること	
コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーションに関すること		
本事例のキーワード	行動の分類 感情の理解 感情と認知の関係性の理解			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>行動の段階を理解する</b> <b>①行動のパレット</b> ・例に挙げる行動を「赤：危険な行動」「黄：注意すべき行動」「灰：良くは思われない行動」「緑：適切な行動」の4つに分類する【参考A】 <b>②適切な行動とは</b> ・自分の行動を振り返り、緑に分類されるような適切な行動を増やしていくことについて考える	<b>①②について</b> ・生徒が行動を振り返る際に、「相手に原因があるから自分の行動には問題がない」といったような、自分中心の考え方にならないよう、客観的に考えさせる ・行動の例は付箋に書いておき、生徒が自分で分類作業をできるようにする ・生徒が分類作業に慣れてきたら、生徒自身にも思いついた行動を新しい付箋に書かせる	・後の指導で不適切な言動があった場合に、「その言動は表の何色に分類されるか」という声かけで、行動のレベルを客観的にとらえることができた  <b>【第二段階に向けて】</b> ・各色の行動を起こすきっかけについて考える
	第二段階	第二段階の目標 <b>行動の裏にある感情を理解する</b> <b>①気持ちを表す言葉</b> ・生徒自身が使う、気持ちを表す言葉を挙げさせ、それらの言葉を+の気持ち(ポジティブ)、-の気持ち(ネガティブ)に分類する【参考B】 <b>②苛立ちや怒りにつながる気持ち</b> ・①の中で、自分にとって苛立ちや怒りにつながる気持ちを考える	<b>①②について</b> ・書くことに抵抗がある生徒が作業しやすいように、気持ちを表す言葉が書かれた付箋を準備しておく ・学級担任から、以前あったトラブルなどを聞いておき、その原因になったキーワードなどをワークシートに盛り込んでおく
第三段階		第三段階の目標 <b>感情と認知のつながりについて知る</b> <b>①具体的な例をとおして気づく</b> ・認知(物事の捉え方)によって同じ場面でも感じ方が違うことに気付く(例：周りから注目されているとき) ・さまざまな場面で、捉え方によってどのような感情になるかを考える ・実際にあったトラブルから、捉え方を変えることで感じ方が変化することを実感する	<b>①について</b> ・生徒が限定的な思考から「自分はこうは思わない」とこだわる場合は「こう思う人もいる」「いろいろな考え方をする人もいる」という思考の多様性について丁寧に具体例をあげて説明を行う ・生徒が新しい考え方をできたときにはそのことをほめるなど、肯定的な言葉かけを行う

### 【通級指導の成果(生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な言動があった際の指導場面で、感情的にならずに部活動の顧問に相談することができた</li> <li>・以前はテストの後などに自分の思った通りの点数でなかったりすると解答用紙を破いてしまうことがあったが、指導後は「前回よりも〇点上がっているからよかった」「あまり勉強できなかったけど、これだけの点がとれた」と捉え方を変えて、気持ちを切り替えることができた</li> </ul>
--





## 通級による指導実践事例 中学校 No.2

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・限定的な思考に陥らず、物事に折り合いをつけることができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 1年	指導時期	4月～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思っていることを言語化して相手に伝えることが苦手である</li> <li>・相手の立場や思いを想像して行動することが難しく自分中心的な考えになる傾向があり、社会性やコミュニケーションにおいて困難さがある</li> <li>・自分の行動を客観的にとらえる力に課題がある</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	心理的な安定		障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整に関すること	
	コミュニケーション		コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	
本事例のキーワード	自己理解 アンガーマネジメント 相談するスキル			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組	
第一段階	<b>第一段階の目標</b> <b>自己理解ができる</b> <b>①自己理解への取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルチェックリストを用いて、自分の持っている力について評価を行う【参考A】</li> </ul> <b>②目標設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価をもとに、自分にその力が足りていないと思った場面について交流する。また生徒自身が必要と感じているかどうかについて話し、次の目標設定につなげる</li> </ul>	<b>①②について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が「得意なこと」だけでなく、「苦手なこと」についても評価できていることに対して、教員は肯定的な言葉かけを行う</li> <li>・チェックをつけ終わった後、教員と生徒で結果を見直す</li> <li>・特に高い評価や特に低い評価については、判断した理由や、在籍校でのエピソードも交流しながら再評価を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の苦手な部分や得意な部分について適切に把握することができた</li> <li>・在籍校でのエピソードを思い出しながら、自分自身がどんなことに気を付けて生活しているかを話すことができた</li> </ul> <b>【第二段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りを感じたときに適切な行動がとれなくなるため、その対処法を学ぶ</li> </ul>	
	第二段階	<b>第二段階の目標</b> <b>怒りへの対処法を学ぶ</b> <b>①怒りを感じる場面を知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような場面でどれくらいの怒りを感じるか、具体的な例をもとに自分で評価を行う【参考B】</li> </ul> <b>②行動の振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りを感じたときにとったことのある行動を例の中から選ぶ【参考B】</li> </ul> <b>③対処法を考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苛立ち、怒りを感じたときに自分でも実践可能な対処法を例の中から選ぶ</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な例と、生徒自身が実際にトラブルを起こしてしまったエピソードを事前に学校から収集し、ワークシートの内容に含める</li> </ul> <b>②③について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に「行動のパレット」の学習で、行動が「危険な行動」「注意すべき行動」「人によって良くないと思われる行動」「適切な行動」に分類できることを学習させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが落ち着かなくなると不適切な行動をとることがあったが、意識してその場を離れるなど対処法を実践することができるようになった</li> </ul> <b>【第三段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを言葉で表すことに課題があるため、自分から相談や報告できるスキルを身につける</li> </ul>
第三段階		<b>第三段階の目標</b> <b>相談するスキルを身につける</b> <b>①相談に対する抵抗感を把握する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談しやすいこと」と「相談しにくいこと」を挙げる</li> </ul> <b>②相談相手を決める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容ごとに、誰に相談すれば問題が解決しやすいかを考える</li> </ul> <b>③シミュレーションを行う</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する相手や内容によって、いつ、どこでなら相談しやすいかを考え、シミュレーションする</li> </ul>	<b>①②③について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が実際に大人に相談できたエピソードを小学校や保護者から聞いておきその内容について交流する</li> <li>・相談する場合と相談しない場合のそれぞれのメリットとデメリットについて、生徒にわかりやすいように教員が視覚的に示す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内で困っていることがあると担任に相談して、問題解決のために大人の力を借りることができた</li> <li>・相談できたことを通級指導教室で報告することができた</li> <li>・一方で、そのときの気持ちの状態によっては自分の悪かったところを認められないことなどもあり、今後の課題である</li> </ul>

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

- ・4月当初は友だちとトラブルになったときに、不適切な言動があったが、現在では意識して自分から担任に報告・相談ができており、クラス内で不安な様子をみせることがなくなった
- ・相談したことにより問題が解決できたことが生徒の自信につながっている



## 通級による指導実践事例 中学校 No.3

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級で授業を落ち着いて受けることができる</li> <li>・授業などで苦手なことや困ったことがあったとき、どうしたらよいのかを考えることができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 1年	指導時期	4月～11月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中内容が難しいと、自由に発言をしたり、席を離れたりする</li> <li>・友だちに自分の気持ちをうまく伝えられず、たたいてしまうことがある</li> <li>・注意を受けると、何もしゃべらず、動かなくなる</li> <li>・個別の指導は集中して受けることができる</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	衝動性 トークンエコノミー 社会性			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	<b>第一段階の目標</b> <b>自己理解を深め、学校生活に慣れる</b> <b>①ワークシート（かもがわ出版「SSTワークシート」）を使い、自分を知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級での過ごし方を振り返り、通級指導教室で過ごしているときの自分と比較する</li> <li>・自分の長所と短所を知る</li> </ul> <b>②友だちとカードゲームをする</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級の友だちとゲームを通してつながりを持つ</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がどんなことが得意（不得意）なのかに気づかせる</li> <li>・不得意なことをするとき、自分が不安を感じていることに気づかせ、その不安にどう対処すればよいのかを考えさせる</li> </ul> <b>②について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをする中で、トラブルや勝手な行動があったときのために、通級指導担当者はそばで見守る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級で過ごしているときの自分と、通級指導教室で過ごしているときの自分を比べ、「通級ではできるんやけどな…」とつぶやくことがあった</li> <li>・通常の学級での不安定な自分に疑問や違和感をもつようになった</li> </ul>
	<b>第二段階の目標</b> <b>「良い行動」を強化する</b> <b>①「良い行動」を強化する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さん とってもいいね ポイントカード」で、できたことに対してポイントをもらう</li> </ul> <b>【参考A】</b> <b>②通級指導時に体を動かす</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「風船バレー」「コグトレ棒」などを使いながら、体を動かす機会を増やす</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャイム着席をする」など、日常の行動について、目標を達成できたら授業担当の先生にサインをもらい、ポイントがたまったら、本人が好きな卓球を15分間できることにする</li> <li>・「〇〇をする」→「自分にとって良いことが起こる」→「また〇〇をしたい」という思いを持たせ、良い行動を強化する</li> </ul> <b>②について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衝動性をコントロールするため、体を動かすことをさせる</li> </ul>	<b>【第二段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な行動を減らし、適切な行動を認められるようになる</li> <li>・教員が支援の観点を明確に持つ</li> </ul>
第二段階	<b>第三段階の目標</b> <b>他の「良い行動」にも取り組む</b> <b>①「〇〇さん とってもいいね ポイントカード」の項目を絞る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が「自分がかんばりたい項目」を選択する</li> <li>・毎回同じ内容になりそうな場合、努力できそうなものについても検討する。</li> </ul> <b>②保護者に報告する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導を行った日に、保護者へ「がんばったよカード」を渡す</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントカード1枚目、2枚目で「ほぼ達成できていること」をしっかりと認めつつ、そのほかの項目について、本人が努力できそうなものを選択することを促し、ステップアップさせる</li> </ul> <b>②について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が保護者から認められることを非常に喜ぶので、1つの連携方法としても「がんばったよカード」を渡し、本人の励みにする</li> </ul>	<b>【第三段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の項目についても取り組めるよう、項目を絞る</li> <li>・保護者との連携方法を探る</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級での授業において、教科担当の教員から「〇〇さん、このときすごくがんばってましたよ。」という声を聞くことが増え、それを本人に伝えることで、さらなる意欲の向上につながった</li> <li>・困ったことがあるとき等、以前よりは話したのが早くなったが、まだ難しいときもある</li> </ul>		

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

- ・通級指導時に、通常の学級での授業を少しずつ振り返ることで、本人の自己理解につながった
- ・昼休みに友だちと通級指導教室で遊ぶことで、適切な人間関係を構築するきっかけとなった
- ・通常の学級でできることが少しずつ増えてきた



【参考資料】

【参考A】〇〇さん とってもいいね ポイントカード

〈 表面 〉

〇〇さん (T) とってもいいね! (T) ポイントカード (P)

スタート!	1/29	1/29	1/30						その星!	★	10
				これで★!					あと★!	★	20
									ゴール!	★	30

裏面の項目の数字と、達成できた日付、先生のサインを書いてもらいます

ポイントの数だけ先生のサインをもらおう。

今回たくさんポイントをとりたいのは 〇〇 番です!

〈 裏面 〉

〇〇さん とってもいいね! ポイントカード

	内容 (ポイントをくれる人)	TTP
1	8:25までに、荷物をロッカーにおいて朝読の本を用意して座る。(朝-HRの先生)	1P
2	8:45まで、しゃべらずに座って朝読をする。(〇〇先生)	1P
3	チャイム席を守る。(各授業の先生)	授業につき1P
4	授業中、発言するとき、席を離れるときは、先生に当てられてから発言する。(各授業の先生)	授業につき1P
5	テスト中は音を出さずに受ける。(〇〇先生)	1回につき1P
6	給食当番をきちんとする。当番ではないときは、4限が終わって10分後には着席する。(〇〇先生)	1P
7	そうじでOをもらう。(掃除場所の先生)	1P
8	家庭学習ノートでOをもらう。(〇〇先生)	
9	通級で一生懸命勉強する。(〇〇先生)	
10	通級が終わったらすぐに教室にもどる。(〇〇先生)	1P
11	他の先生から「〇〇さん〇〇がんばってました」を〇〇先生が聞く。(〇〇先生)	5P
12	訂正ノートを期限を守って提出する。	1つ3P

本人と相談しながら何を頑張るか項目を決めました。ポイントも難易度で差をつけました



これできみも・・・スーパー〇〇中生だ!

## 通級による指導実践事例 中学校 No.4

個別の指導計画における短期目標	・自分が悩んでいることや困っていることを何らかの方法で人に伝える			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 1年	指導時期	4月～11月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭では会話ができるが、学校では友達と会話ができない</li> <li>・決まった言葉「失礼します」「ありがとうございました」などは小さな声で言える</li> <li>・動作がゆっくりで、ぎこちないところがあり、緊張すると瞬きの回数が多くなる</li> <li>・授業では話を聞く、ノートを書くなど、しっかりと取組んでいる</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	場面緘黙 不安 緊張 社会性			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>通級指導での楽しい経験をつむ</b> ①ゲームやコグトレ等を通して、通級で楽しい経験をつむ ・カードゲームやコグトレをしながら楽しくコミュニケーションできる時間をつくる ②メモに聞きたいこと、困ったことを書く練習をする	<b>①について</b> ・初めての場所で慣れないことも多いので、通級での時間は「安心できる」ということと、「楽しいことがある」と思えるような時間をつくるようにする <b>②について</b> ・本人にとって初めてのことばかりなので、聞きたいことがないか、あればメモに書くよう促す	・会話するときは筆談が中心だが、それもかなり緊張した様子だった ・活動もまだぎこちない様子であったが、「メモを使って聞くことができる」のは、本人にとっては安心だったようである ・カードゲームなどをしているときは、比較的穏やかな表情だった <b>【第二段階に向けて】</b> ・本人が不安を感じ、緊張していることを丁寧に把握する ・自己理解を深める
	第二段階の目標 <b>自己理解を深める</b> ①不安と緊張をレベル分けする ・「どきどき・きんちょう度チェックシート」を使い、不安や緊張を感じることをレベル分けする <b>【参考A】</b> ②自分自身を知る ・かんもくネット「中高生用 場面緘黙を理解するために」を使い、自分自身の状態を知る <b>【参考B】</b>	<b>①について</b> ・「通級で先生と筆談する」「教室に入る」「おうちでお母さんと話す」といった項目を付箋で作し、緊張や不安度を五段階に分け、本人に貼らせる <b>②について</b> ・一緒に読み進めながら、何回かに分けて、自分が当てはまる部分に○や△をつけ、「性格の特徴」「自分の状態」を理解できるようにする	・家で話をするのが、一番緊張度が低く、学校のトイレに行くときは緊張度が高いなど、意外な場所や状況で、緊張度が高いことが分かった ・一緒に活動を進めるなかで、悩みながら判断する場面と、すぐに判断できる場面の差も把握することができた <b>【第三段階に向けて】</b> ・保護者との連携をはかるため、三者でコミュニケーションをとる機会をつくる ・自己評価を高める
第三段階	第三段階の目標 <b>自己評価を高める</b> ①簡単な日記を書く ・一言日記を書き、その日の自分を振り返る ②保護者と本人、通級担当の三者で話をしたりゲームをしたりする ・放課後の通級指導の時間を使い、月に1回程度保護者と三者で活動する時間をとる	<b>①について</b> ・本人の書いた内容について、肯定的なコメントを返し、自己理解を促すとともに、自信を持たせる <b>②について</b> ・第二段階の付箋に「おうちの人、先生と通級でゲームをする」という項目の不安・緊張度が低かったため、可能な範囲で保護者に通級指導の時間に来てもらい、連携を深めながら、本人のリラックスできる時間をつくる	・「良い」「いや」という感情が表情でわかるようになった ・通級指導開始時は非常に小さくささやくような声だったが、しっかりとした声になってきた ・第二段階で、学校生活のなかでの不安が意外と多いことがわかったので、通級指導時にそれを念頭に置いてコミュニケーションをとることができるようになった ・まだ本人にとって不安な面は多々あるので、少しずつ取り除きたい

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

- ・チェックシートなどを使うことで、自己理解につながった
- ・学習に関することについては、困ったことを聞くとメモで伝えられるようになった
- ・少しずつ感情が表情に表れるようになった

【参考資料】

【参考A】 どきどき・まんちょう度チェックシート

つうじのみんなの前で話す

5 (お母さん) 「ドードー」「ニャー」と書いておもしろい。おもしろい。話す

4 (お母さん) スーパーで、お母さんとお話す。おもしろい。話す

3 (お母さん) 通級で、練習さいたりのおもしろい。話す。おもしろい。話す。おもしろい。話す。

2 (お母さん) おもしろい。話す。おもしろい。話す。

1 (お母さん) おもしろい。話す。

通級で一つ一つ貼っていきました

【参考B】 中高生用 場面緘黙を理解するために (かんもくネットより)

次の文章を、なれかといっしょに読んでください。自分一人で読んででもかまいません。もしよければ、( )の中に自分にあてはまるところに○、少しあてはまるところに△、あてはまらないところに×を入れ、どう答えて良いかわからない時は空白のままにしてください。自分の状態を知るのに役に立ちます。

1. どんなことで困るか。

家では話せるのに学校ではどうしても声が出ない、あるいは声が出づらい子ども達もいます。その子ども達は、自分でもなぜ声が出ないのかわからず、とてもつらい思いをしてきました( )。この子ども達はとても「敏感」( )で「感じやすい」( )のではないかと考えられます。また、他の人に話しているのを見られていたり、声を聞かれたりすることをとてもこわく感じ、不安を感じます( )。

話せない、あるいは話しづらいだけでなく、なかなか動けない、くしゃみやせきができない、身ぶりが手ぶりがしづらい、表情を変えられない、笑えない、トイレに行けない、給食が食べづらい、体操服に着替えられない子どももいます。

2-3人の友達と小さな声でなら話せたり、発表や本読みはできたり、先生とは小声で話せるけれども、休み時間に友達とおしゃべりができないという子どももいます。こたえることはできるけれども自分からは話しかけることが苦手、友達同士のおしゃべりの輪に加わることが難しい子どももいます。かなり話せるけれど、言葉がすぐに出てこないことがある子どももいます。

友達にいやなことを言われたり、いやなことをさせられたりしたことがある( )、友達から誤解されているように感じることもある( )かもしれません。何かで困っていても先生に知らせることが難しいです( )。親にもなかなか全部は言えず、つらい思いをしている子どももいます( )。

学校で思うように話せないためにストレスがたまり、家でイライラすることが多いかもしれません( )。緊張のために、お腹が痛くなる、下痢や頭痛、吐き気など、体の調子が悪くなることもある子どももいます( )。教室にいたことがつらい( )、学校に行きたくないと感じる子どももいます( )。

2. 学校で声を出しにくいのはどうしてか。

原因はまだはっきりわかっていませんが、「わがまま」「性格が悪い」のでは決してありません。

この子ども達は、生まれつきとても敏感で、感じやすい子どもではないかと考えられています。人間は動物の仲間です。動物は自然の中で生きてきました。だから、動物は寒が近づくと、脳が危険を感じて不安が起き、戦うか逃げるか決めることができるようになってきました。これは動物が自分の身を守るための脳の働きです。この子ども達は危険を感じる程度が、普通の人よりも敏感なために、少しの危険にも大きな不安を感じてしまうのではないかと言われています。そのために、家で普通なのに、学校やある場面で、こわく感じたりとても不安を感じるのです。

もしあなたが、声を出せなくて、人との関係の中で困ったとしても、それはあなたのせいではないのです。あなたはとても感じやすいために、学校で友達と話すような場面でたいへん緊張感が高まり、自分をコントロールすることが難しいわけなのです。決して自分を責めることのないようにして下さい。親も先生もこのことを理解し、あなたを支援することが必要です。

「かんもくネット」  
<http://kanmoku.org/>



## 通級による指導実践事例 中学校 No.5

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不得意な学習課題に取り組み、日常の学習意欲を維持することができる</li> <li>・学習内容について、わからないことを質問することができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 1年	指導時期	6月～3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中を維持することが難しいが、学習には真面目に取り組む</li> <li>・ADHDの診断があり、学校のある日はコンサータを服用して登校する</li> <li>・精神障害者保健福祉手帳を所持</li> <li>・心理検査（2019.3実施/WISC-IV）では、「言語理解」「短期記憶」に課題</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定	情緒の安定／障害による学習上の困難を改善・克服する意欲		
	コミュニケーション	言語の受容と表出／言語の形成と活用		
本事例のキーワード	ADHD 学習困難 自己肯定感			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自信が持てない教科について、通級指導で自己のつまずきを知る</b> <b>①自分のつまずきを知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学習で理解が不十分だった内容を、通級指導の時間に重点的に学習する</li> <li>・中学校入学後に自信がなくなった理科や国語についての学習にも比重を置く</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習場面における生徒のつまずきを分析する</li> <li>・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する</li> <li>・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく</li> <li>・各教科担当からその都度、授業の重点内容等の情報をきく</li> <li>・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する【参考B】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室では、本人の特性に応じた支援をすることで、ひたむきに学習に取り組み、充実感を持っている様子だった</li> <li>・通常の学級では、真面目に学習に取り組み続けた</li> <li>・学級担任や教科担当が生徒の障がい特性について理解を深めた</li> </ul> <b>【第二段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室の活用を継続する</li> <li>・学習のどこでつまずいているかを自覚し、通級指導教室で質問できるようになる</li> </ul>
	第二段階の目標 <b>学習でのつまずきに気づき、通級指導教室で質問することができる</b> <b>①質問の仕方を考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習上でのつまずきに自ら気づき、どのように学習していくかを自ら判断する</li> <li>・通級指導の際、わからないところを口頭もしくは図にして質問する</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する</li> <li>・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく</li> <li>・各教科担当に重点内容や学習課題等について確認しておく</li> <li>・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する【参考B】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室では、担当教員に対してよく話し、質問できるようになった</li> <li>・通常の学級では、真面目に学習に取り組む様子が見られるようになった</li> <li>・学級担任や授業担当が生徒の情報を伝えてくれることが増えた</li> </ul> <b>【第三段階に向けて】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得意分野を伸ばすことをめざす</li> <li>・学習上のつまずきを自覚し、学級で質問できるようになる</li> </ul>
第三段階	第三段階の目標 <b>学習でのつまずきに気づき、通常の学級で質問することができる</b> <b>①通常の学級での質問の仕方を考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級での学習の際、わからないところを自覚し、クラスメイトや担当教員に質問する</li> <li>・授業参加への自信については、数値化して確認する【参考A】</li> <li>・自信のある「数学」の学習に重点を置き、自信をさらにつける</li> </ul>	<b>①について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する</li> <li>・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく</li> <li>・各教科担当に重点内容や学習課題等について確認しておく</li> <li>・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する【参考B】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不得意な学習課題にも積極的に取り組むことで、日常の学習意欲を維持することができた</li> <li>・得意な学習内容に取り組むことで、学習への自信を伸ばすことができた</li> <li>・日常の学習や授業については自信をつけたが、定期テストについては不安を感じているため、計画的に準備するための方法について取り組む</li> </ul>

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導で自己のつまずきを確認、整理し、その特性に応じた学習をすすめることで、学習上の不安が軽減され、学習への意欲の維持につながった</li> <li>・通常の学級で授業を受けることについて、徐々に自信を持ってきた様子が見られた</li> </ul>
---

【参考資料】

【参考A】学習の数値化シート

すうちか  
**学習の数値化シート**

**ねらい**  
自信の回復  
テストの点数を上げるのではなく、「どうせできない」と思っている本人の自信を少しでも回復させてほしい、という保護者のニーズを受け、このやり方に行っている

**【授業わかる度】**

〈月日、曜日〉	国語	社会	数学	理科	英語
／	／5点	／5点	／5点	／5点	／5点
( )	音楽	美術	保健体育	技術	家庭
	／5点	／5点	／5点	／5点	／5点

**【テスト自信ある度】**

【授業わかる度】と【テスト自信ある度】は、意義付けが異なるため、別日に実施する

〈月日、曜日〉	国語	社会	数学	理科	英語
／	／5点	／5点	／5点	／5点	／5点
( )	音楽	美術	保健体育	技術	家庭
	／5点	／5点	／5点	／5点	／5点

**留意点**

「学習内容の理解や定着」をめざすのではなく、「学習への安心感や自信」につなげたり、「学習の方略」を立てることを重視

**成果**

テストの点とは関係なく、「授業がわかる」という実感は上がっていた。「学習への取り組み方」を学ぶことで、「学習への安心感や自信」の回復ができることを自覚させることができた。

【参考B】 教職員間での情報の共有

市内校務システムを利用した校内での情報共有

- ・ 指導1時間が終了するごとに記録
- ・ 記録内容は、その時間の指導内容や本人の様子など

**ねらい**

通常の学級担任や授業担当教員との打ち合わせ時間がとりにくいが、各自の都合のいい時に内容を確認することができる

**成果**

通常の学級担任や授業担当教員から、生徒が困っている状況や、生徒への対応についての報告、相談があがりやすくなった



## 通級による指導実践事例 中学校 No.6

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちや状況を言語で表現することができる</li> <li>・日常生活をふりかえり、自己理解を進めることができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 2年	指導時期	6月～3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活には前向きで、真面目な性格</li> <li>・自分の気持ちを言語化して表現することが困難</li> <li>・学校での人間関係に自信をなくして、不安を感じている</li> <li>・疲労感や体の緊張、怒りっぽくなるようなストレス反応が見られる</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		情緒の安定	
	人間関係の形成 コミュニケーション		自己の理解 状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	ふりかえり 感情のコントロール コミック会話 ストレスマネジメント リラクゼーション			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自分の状態を把握する</b> ①自分の状態を把握する <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルになったときの自分の心境をふりかえる</li> <li>・ストレス反応に関する質問紙を用い、自分のストレスの状況を把握する</li> <li>・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす</li> </ul>	①について <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの状況をふりかえる際には、ホワイトボード上で視覚化する（コミック会話を使用） 【参考B】</li> <li>・ストレス反応については、良い悪いの判断は行わない</li> <li>・身体的なアプローチにより筋緊張を弛緩させる</li> </ul> ＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での人間関係だけでなく、家族との人間関係も整理する機会を持てた</li> <li>・リラックス状態を知る機会を持てた</li> </ul> 【第二段階に向けて】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のふりかえりをする機会を設け、継続的に自分のコンディションに関心を持たせる</li> </ul>
	第二段階	第二段階の目標 <b>自分の行動や気持ちをふりかえる</b> ①自分の行動をふりかえる <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルになったときの自分の行動をふりかえる</li> <li>・暴力、暴言で対応してしまう時の怒りの度合いや、興奮が高まる状況を知り、適切な対応方法を学ぶ</li> <li>・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす</li> </ul>	①について <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの状況をふりかえる際には、ホワイトボード上で視覚化したことを言葉で説明させる 【参考B】</li> <li>・怒りの程度を数値化し、冷静さがなくなるポイントを自覚させる 【参考A】</li> <li>・トラブルにつながる考え方を自覚させ、そうならない考え方に気づかせる 【参考A】</li> <li>・身体的なアプローチの継続</li> </ul> ＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う
第三段階		第三段階の目標 <b>自分の行動や気持ちについて、自分の言葉で説明する</b> ①自分の言葉で説明する <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルになったときの自分の気持ちや行動を言語化する</li> <li>・トラブルになる状況をふり返る中で、その行動に至った原因や環境要因を考える</li> <li>・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす</li> </ul>	①について <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの状況をふりかえる際には、自分の言葉で説明するように意識させる</li> <li>・トラブルにつながった行動だけでなく、その原因や環境要因についても関心を向けさせる</li> <li>・身体的なアプローチの継続</li> </ul> ＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族とのケンカが減った」との本人からの発言があった</li> <li>・落ち着きが見られるようになり、学校での対人トラブルが減少した</li> <li>・興奮や不安といった自己の状況を言語化して表現しようとする態度が見られるようになった</li> </ul>
--

【参考資料】

【参考A】 違った考えをしようシート

## 違った考えをしようシート

感情のマネジメントを学習する上で活用するツール

いつ、どこで、何があった？

月日、曜日： 月 日 ( )      場所・場面： \_\_\_\_\_

あなたはどう行動した？ どう思った？

どんな気持ち？ どれくらいの強さ？

気持ち： \_\_\_\_\_      強さ： \_\_\_\_\_ %

#	違った考え#	気持ち#	強さ#	意見・感想#
考え方 ①			%	
考え方 ②			%	
考え方 ③	必ずしも3つの考えを出す必要はない		%	

**留意点**  
自分で記入させる場合もあるが、それが難しい場合は聴きとりをしながら指導教員が記入する場合もある

**留意点**  
記入は、シートの上から順番に行う

**留意点**  
異なる考え方を持つことで、最初に感じた気持ちに変化があったり、気持ちの強さが変わったりすることに気づかせる

**成果**

- ・すぐに怒りのコントロールにつながるわけではないが、生徒本人の気づきにつながる
- ・客観的に考えることにつながる
- ・ホワイトボード上に記載（黒板上でも紙上でも可）

【参考B】 コミック会話

棒人間や吹き出しなどのイラストを用いて、複数人の会話ややりとりを理解しやすくし、コミュニケーションを分かりやすくする技法

**留意点**

- ・トラブルが起こったときなどに活用
- ・ホワイトボード上に記載（黒板上でも紙上でも可）

**成果**

- ・視覚支援の技法として有効
- ・生徒本人が事実経過を理解し、トラブルの原因を発見できる

通級による指導実践事例 中学校 No.7

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が思ったことや感じたことを言葉で説明することができる</li> <li>視覚支援の教材を使用し、英語に関しての前向きな学習の姿勢を身につける</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学 年	中学校 2年	指導時期	5月～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に集中力が続かない</li> <li>記憶の保持が難しく、集団の中で話の内容などを覚えておくことが難しい</li> <li>自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	視覚支援 操作活動			

【指導の具体的な様子】

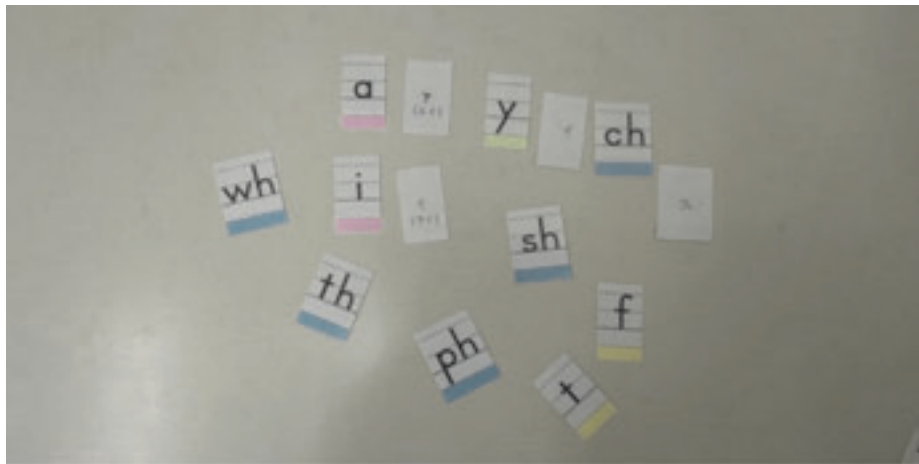
学 習 内 容		指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>アルファベットの読み方を学ぶ</b> <b>①アルファベットの読みを学ぶ</b> ・アルファベットに親しみ、繰り返し声に出して、理解を深める 【参考A】	<b>①について</b> ・カードを使って、視覚支援を行い、アルファベットの読みを学ばせる ・楽しみながら行うことで注意集中を促す ・声に出して読む、カードを選ぶことを繰り返し行わせることで、記憶の定着の手段を学ばせる *通常の学級との連携 通常の学級担任と英語担当に、本人の認知特性と指導内容を伝え、通常の学級での支援方法について共有する	・通級指導時に、自信をもってアルファベットを読むことができたようになった ・通常の学級の授業に対して前向きな姿勢で取り組むようになった 【第二段階に向けて】 ・アルファベットから単語の発音へつなげる
	第二段階の目標 <b>単語の発音を学ぶ</b> <b>①フォニックスを用い、文字と読みをむすびつける</b> ・一つの英語の文字に対して、複数の読み方を学ぶ <b>②単語と絵のマッチング</b> ・法則にしたがって単語を読み、絵を活用して単語を覚える 【参考B】	<b>①について</b> ・カードを使って、視覚支援をしながら、単語の表記と発音の違いを学ばせる <b>②について</b> ・絵と単語をマッチングさせ、視覚的な手段を用いて、単語数を増やし、記憶の定着の手段を学ばせる	・単語を少し読めるようになったことで英語への苦手意識が緩和され、少しずつ自信がついてきた ・自信がついたことで、自分の気持ちや考えを少しずつ伝えられるようになった ・単語と絵がむすびつき、文字と意味のイメージがつかめるようになってきた 【第三段階に向けて】 ・単語量が増えたことを活用し、文法につなげる
第三段階	第三段階の目標 <b>簡単な文法を学ぶ</b> <b>①2語文～3語文の文法を学ぶ</b> ・スモールステップで文法を学ぶ <b>②カードで文法づくり</b> ・カードを操作して、主語、動詞、一般動詞を確認する 【参考C】 <b>③教科書を色分けする</b> ・②で用いた単語カード(色分けしたもの)にそって、教科書の色分けをする	<b>①について</b> ・具体的な活動を入れながら、集中力の持続を図り、単語カードを使い、文法を理解させる <b>②について</b> ・カードを操作させることで、学んだことを確認させる <b>③について</b> ・カードの色分けに基づいて、教科書に色分けをさせ、確認させる ・視覚による支援と声に出して聴覚による支援をしながら、記憶を強化させる	・カードでの並べ替えなどの操作は、消す作業がないので、「できる」という自信につながった ・教科書を色分けしたことにより、教科書の英文が理解できるようになった ・教科書の内容を、自分の力で理解しようという意欲につながった

【通級指導の成果 (生徒の変容)】

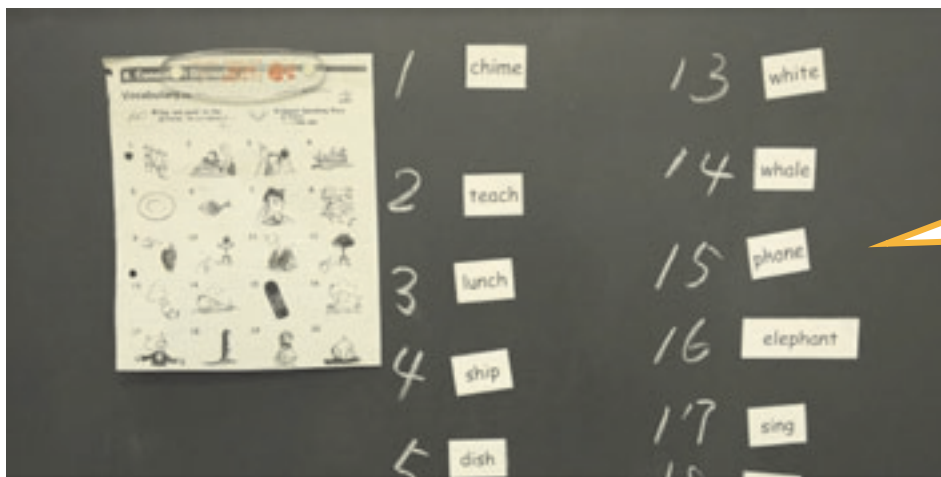
<ul style="list-style-type: none"> <li>通級指導教室での学習によって、分かること、できることが多くなり、自信につながってきた。それに伴って、自分の考えを伝えられるようになり、声も大きく出せるようになってきた</li> <li>特性に応じた学びをとおして、通常の学級で英語を読むことや訳すことができ、授業中の集中時間が伸びた。それに伴って、学習内容の理解がすすんだ</li> </ul>
---

【参考資料】

【参考A】 アルファベットカード

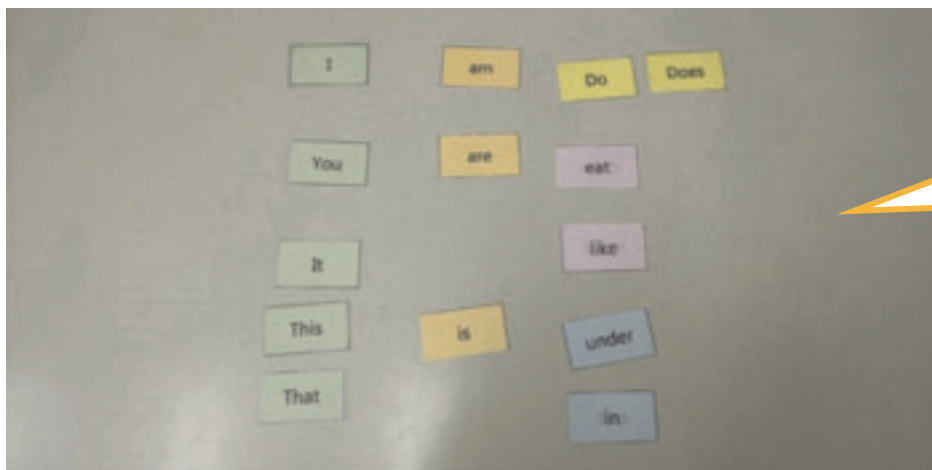


【参考B】 単語と絵のマッチング



絵と単語のマッチング  
単語数を増やしていく。  
視覚的な絵があることで  
具体的なイメージができ  
やすい

【単語C】 カードで文法づくり



文法づくり。カードを並べ替  
える操作をしながら、考え  
る。色分けによって、肯定  
文、否定文、疑問文が理解  
できるようにする

## 通級による指導実践事例 中学校 No.8

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が思ったことや感じたことを言葉で伝えることができる</li> <li>わかった、できたという経験を増やしていく</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	中学校 2年	指導時期	5月～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚から情報を受け取るのに難しさがあり、学習意欲につながりにくい</li> <li>自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	自己理解 自己表出 対人スキル			

### 【指導の具体的な様子】

学習内容		指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自分自身をとらえる</b> ①自分の気持ちを知る ・自尊感情測定尺度のためのチェックリストを行う【参考A】 ②チェックリストを分析する ・自己分析を行い、自分の得意なことや不得意なことを把握する【参考A】	①②について ・自分の気持ちを客観的にみることができるよう、 A 自己評価・自己受容 B 関係の中での自己 C 自己主張・自己決定 といった観点で自分を振り返ることができるチェックリスト等を用意する	<ul style="list-style-type: none"> <li>22の質問項目を教師と一緒に確認しながら、自分の気持ちを表出することができた</li> <li>自己評価や今の自分を受け止めて、教師と話し合うことができた</li> </ul> <p>【第二段階に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことを伝えるために、語彙を増やす</li> </ul>
	第二段階の目標 <b>自己表現を増やす</b> ①自己表現のための語彙を増やす ・コミュニケーションカードを使ったゲーム等を用いて、教師と対話をしながら、語彙を増やし、コミュニケーションスキルを学ぶ ・コミュニケーションゲームから自己の内面をみつめる	①について ・ルールの把握やゲームの過程において、「話を最後まで聞く」「自分の思いを表出する」などを、学ばせるための声かけや助言を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを表現する語彙が増えた。</li> <li>コミュニケーションのルールを学び、それに沿って話すことが、話しやすいことに気が付いた</li> </ul> <p>【第三段階に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価が高まるように通級指導で経験を増やし、ありのままの自分を受け入れられるようにする</li> </ul>
第三段階	第三段階の目標 <b>相手に気持ちや考えを伝える</b> ①場に応じた伝え方を考える ・ワークシートをつかい、「こんなときどのように伝えるか」を場面ごとに考える ・自分だったら「どうするか」「どのように伝えるか」をワークシートに書き出す	①について ・本人と会話をしながら、場面と状況を把握させる ・自分で考え、伝えることができればしっかりほめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったことが起きたとき、自分から「ヘルプ」を出せたり、自分の気持ちを、短い言葉で伝えたりすることができるようになってきた</li> </ul>

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>同世代の生徒と意思疎通ができ、少しずつかかわりをもつことができるようになってきた</li> <li>できたという達成感や話を聞いてもらえたという満足感があり、素直に前向きに通級での学習に取り組んでいる</li> <li>通常の学級担任と通級指導担当教員の連携をとおして、全教職員が生徒理解を深め、本生徒とのかかわりを丁寧に行ったことで、学校生活の様々な場面で生徒自らが援助を求めることができるようになった</li> </ul>
--

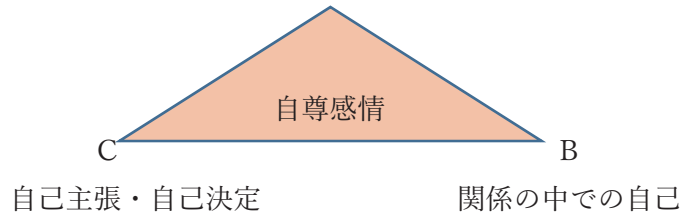


【参考資料】

【参考A】 「自尊感情測定尺度」自己評価シート

「自尊感情測定尺度」自己評価シート

発達段階における、学校教育に求められる自尊感情を構成する3つの観点  
A 自己評価・自己受容



上の3つの観点は、下の22の質問項目に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけ、「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、「どちらかといえばあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1で示し、集計しレーダーチャートにあらわされたものです。

★22の質問項目（一部省略）

- 1 私は今の自分に満足している
- 2 人の意見を素直に聞くことができる
- 3 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
- 4 私は自分のことが好きである
- 5 私は人のためになることをしたい
- 6 自分の中にはいろいろな可能性がある
- 7 自分はダメな人間だと思うことがある
- 8 私はほかの人の気持ちになることができる
- 9 私は自分の判断や行動を信じていることができる
- 10 私は自分という存在を大切に思える

自己評価シートの実施後、自尊感情の傾向を分析

1. レーダーチャート全体的な大きさから判断する

① 全体的に各観点の得点率が高く、レーダーチャートの大きさが大きい。

●傾向として…このような子供は、自尊感情が高いと考えられ、次のような傾向が見られます。

- ・ 自他共に大切にできる。
- ・ 学校生活の適応は良好で学習面に意欲的に取り組む。
- ・ 日常生活において落ち着いて、心身共に安定している。

小学校第1学年から第3学年では、特に自尊感情は高い傾向にあることから、「自尊感情や自己肯定感に関する意識調査」

三角形が大きくなります。また、個別には、発達段階において自己を客観視できていない場合も考えられます。



出典

東京都「自尊感情や自己肯定感に関する研究」関連資料より



通級による指導実践事例  
(高等学校編)





高等学校編 もくじ

番号	「個別の指導計画」の目標	キーワード	自立活動の区分
No.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事に優先順位をつけながらスケジュールを立て、それを自己管理する方法を習慣化する</li> <li>・卒業後を意識しながら、日常生活をうまく管理するための方策を具体化する</li> </ul>	PDCA サイクル スケジュール管理 生活習慣	健康の保持 心理的な安定
No.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わりやすい説明のポイントを意識した話し方ができるようになる</li> <li>・長文を書くときにも伝わりやすい説明のポイントを意識することができる</li> </ul>	コミュニケーション 話す 書く	環境の把握 コミュニケーション
No.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを論文などのまとまった文章にできる</li> <li>・論文などを作成するための、自分に合った方法を見つける</li> </ul>	作文 聴覚優位 音声アプリ	環境の把握 コミュニケーション
No.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協力して目標を達成できる</li> <li>・他者の困りに共感し、自分の強みを生かしたサポートを考えることができる</li> </ul>	ペア学習 相手のサポート 作業の見通し シミュレーション	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がどんな場面でどんな気持ちになるか、感情のレベルを認識する</li> <li>・自分に合ったクールダウンの方法を学び、実践できるようになる</li> </ul>	アンガーマネジメント コーピング	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者から見た自分の様子を知り、自分の行動の特徴に気づく</li> <li>・状況に応じた適切な音量調節ができるようになる</li> </ul>	セルフモニタリング 音量調整	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場の状況に左右されずに、落ち着いて授業に取り組むことができる</li> <li>・気持ちが落ち着かないときは、自ら授業担当者等にそのことを伝えられるようになる</li> </ul>	構造化 身体と心の関係 体力・集中力 コミュニケーション	心理的な安定 人間関係の形成 身体の動き
No.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を深め、自分の良さや得意なことに気づく</li> <li>・作業の手順などを他者にわかりやすく説明したり、主体的に声かけしたりできるようになる</li> </ul>	構造化 集中力 コミュニケーション	人間関係の形成 コミュニケーション
No.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション場面での自分の傾向を知り、自分の良いところに気づく</li> <li>・自分の意見を伝えることができるようになる</li> </ul>	自己表出 自己肯定感 集団 グループワーク	心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション
No.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の苦手なことを知り、周りに援助を求めることができる</li> </ul>	自己理解 ヘルプメッセージ 合理的配慮	健康の保持 人間関係の形成
No.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動に優先順位をつける際の基準を意識できる</li> <li>・自分に合ったスケジュール管理の方法を見つけて継続する</li> </ul>	優先順位 スケジュール管理 忘れ物	健康の保持 心理的な安定
No.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な友達や教員に自分の気持ちを示す</li> </ul>	コミュニケーション 他者とのかかわり	健康の保持 人間関係の形成

## 通級による指導実践事例 高等学校 No. 1

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事に優先順位をつけながらスケジュールを立て、それを自己管理する方法を習慣化する</li> <li>・卒業後を意識しながら、日常生活をうまく管理するための方策を具体化する</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	4月～11月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まじめな性格で粘り強く取り組むことができ、論理的に物事を考えることが得意である</li> <li>・持ち物、時間、スケジュールの管理が難しく、忘れ物が多い</li> <li>・優先順位をつけるのが不得意なため、日々の予定が立ち行かなくなることがある</li> <li>・睡眠時間が後ろにずれがちで、特に休日明けの遅刻が目立つ</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	健康の保持		生活のリズムや生活習慣の形成	
	心理的な安定		障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	
本事例のキーワード	PDCAサイクル スケジュール管理 生活習慣			

### 【指導の具体的な様子】

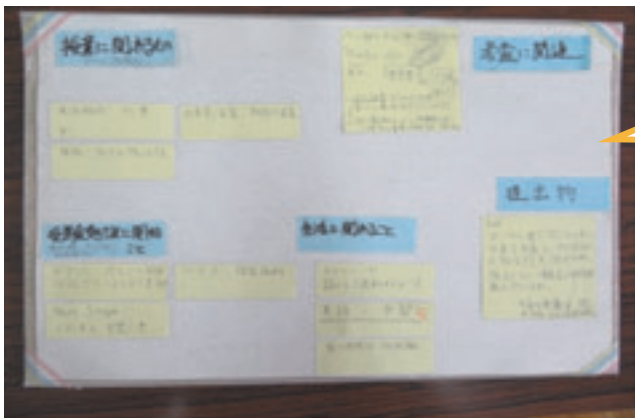
	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>スケジュールの管理方法を学ぶ</b> ①「ToDo」のリストアップによる <b>全体量の把握</b> ・付箋に自分がしなければならないことを書き出し、その種類や量、期限を把握する ②「ToDo」の分類 ・①の付箋を授業関連、生活関連、入試関連、などの項目に分類整理し、「ToDo板」を作成する【参考A】 ③「ToDo」の優先順位付け ・何から優先して行うべきかを考え、1週間の計画を立てる。	<b>①について</b> ・自分で考えることを習慣化させるため、付箋に「ToDo」を書き出す時間を十分にとる <b>②について</b> ・教員とともに分類しながら、リストアップ漏れがないか確認しておく <b>③について</b> ・「ToDo」の量や期限などをふまえて、何を優先するか見通しを立てながら計画を立てることを意識させる ・作成した「ToDo板」を活用するためにはどうすればいいか、自分に合った方法を考えさせる	・リストアップすることで自分の抱えている「ToDo」が可視化され、どの順にいつ取り組めばいいかという見通しを持てるが増えてきた ・作成した「ToDo板」をスマートフォンで撮影し、それを見て「ToDo」を確認することが習慣化されてきた <b>【第二段階に向けて】</b> ・スケジュール管理方法の定着を図りつつ、他の生活上の課題(睡眠、整理整頓、足がよくつる等)に着目し、その解決策を考える機会を設ける
	第二段階の目標 <b>生活上の課題を認識し、解決のために試行錯誤する経験を積む</b> ①スケジュール管理の定着 ・「ToDo板」活用を継続、定着する ②生活上の課題を認識する ・日常生活を振り返り、困っていることやうまくいかないことを確認する ③課題解決の為に試行錯誤をする ・PDCAサイクルに則って課題解決を図り、成功体験を積み重ねる【参考B】 ・図書館やインターネットを利用して改善方法を模索する	<b>①について</b> ・「ToDo板」の活用ができていないか、定期的に振り返りを行う <b>②③について</b> ・成功体験を多く積めるように、取り組みやすい内容も含めて、さまざまな生活上の課題を列挙させる ・生徒が納得して取り組めるよう、教員からはアドバイスにとどめ、どの解決法を試すかは生徒自身に決めさせる(たとえそれが失敗しそうだとしても口を出さない)	・「日中眠くなる」という課題に対して、始めは即時的な解決法を実施したが、その場しのぎであることに気づくことができた ・試行錯誤を繰り返すうちに、生活リズムを整えて睡眠の質を高める必要性に気づき、自分で探した「眠育」に関する資料を参考にしながら解決法を実践できた ・「プリントをなくす」という課題に対し、PDCAサイクルを重ねることで、机の整理の必要性に気づいた <b>【第三段階に向けて】</b> ・うまくいった解決法を習慣化するように働きかける
第三段階	第三段階の目標 <b>獲得した解決方法の定着</b> ①課題解決のための試行錯誤の継続 ・課題解決を図るときに、PDCAサイクルを意識できるようになる ②自分で考えた解決法の定着 ・うまくいった解決法を継続し、習慣化することで、定着を図る	<b>①②について</b> ・今まで蓄積した解決法が今どうなっているか定期的に確認し、うまくいっていないものがあれば、その原因と代替案を考えさせる	・「ToDo板」を活用したスケジュール管理を継続できるようになった ・生活上のさまざまな課題が改善されたという実感を得、PDCAサイクルに則った課題解決を続けたいという意欲を持つことができた ・卒業後の日常生活を具体的にイメージした方策を立てることが今後の課題である

### 【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りシートに、「結果がついてきているので、この調子でPDCAを続けていけたら」と意欲的な感想を記入しており、自分で考えて実行することへの自信が見られるようになった</li> </ul>
---

【参考資料】

【参考A】(第一段階②)「ToDo板」(スケジュール管理ツール)



- ダンボールにコピー用紙を貼りつけて、即席の板を作成。
- 1枚の付箋につき、「ToDo」を1つ記入し、項目ごとに分類して貼り付ける。

【参考B】(第二段階③) PDCAシート (生徒の課題認識の変遷)

STEP2 工夫を覚えてみて実践してみる  
上に提案書書いたものからいくつか選んで、それを解消するためには何をすればよいのかを考えてみる。(下の表の左2列)

個人ごとの	解消するための工夫・方法	やってみた結果	改善点・振り返り
7/30 バス酔い、乗り物酔い	マスクを付けたりと、にんじを減らし。	酔い軽減した。	酔い軽減
8/30 夜更しに気がなる。	分断して寝る。(勉強時間)	分断して寝ることで、夜更しに気がなるのを軽減した。	夜更しに気がなるのを軽減
8/30 ゴミ場所、物が散らかる	ゴミ場所を決める。(机の上)	ゴミ場所を決めることで、物が散らかるのを軽減した。	物が散らかるのを軽減

- 「日中眠くなる」という課題に対し、「眠くなったらガムをかむ」などの対処法を考え、実践した結果を記入
- 最初は即時的な対処法を試したが、次第にその場しのぎであることに気がついた

STEP2 工夫を覚えてみて実践してみる  
上に提案書書いたものからいくつか選んで、それを解消するためには何をすればよいのかを考えてみる。(下の表の左2列)

個人ごとの	解消するための工夫・方法	やってみた結果	改善点・振り返り
8/10 8/11 8/14 8/15 8/17 8/18 眠りの質を高める (Aで寝た後、目覚めが悪い)	ベッドで寝る。 寝具の交換や加湿器を使う。	寝る時の湿度や温度を調整することで、眠りの質を高めることに成功した。	アイマスク 加湿器
同上 (9/26寝る)	加湿器の電源を切る。	加湿器の電源を切ることで、寝る時の湿度を調整することに成功した。	加湿器
同上 (9/26寝る)	加湿器	加湿器の電源を切ることで、寝る時の湿度を調整することに成功した。	加湿器

- 眠気への即時的な対処法から、睡眠の質を高める対処法へと意識が変わっていった

ライフスキルトレーニング PDCAシート(仮) (1-10にたいして提案書作成)

STEP1 自分の生活の振り返り  
自分が悩んでいること、直したいと思っていること、うまくいかないことを提案書で列挙してみる。

STEP2 工夫を覚えてみて実践してみる  
上に提案書書いたものからいくつか選んで、それを解消するためには何をすればよいのかを考えてみる。

個人ごとの	解消するための工夫・方法	やってみた結果	改善点・振り返り
9/10 (仮)	机を掃除する。 机の上のものを減らす。 机の上のものを減らす。	机の上のものを減らすことで、机の整理ができた。	
9/16 (仮)	机の片付け プリント類	机の片付けができた。	教科書・電話・机の上のものを減らす
9/23 (仮)	机の片付け part 2 机の上	机の上のものを減らすことで、机の整理ができた。	机の上のものを減らす

STEP3 工夫をしてみた結果と改善点をまとめる  
計画した工夫・方法を実践してみた結果と、その工夫・方法で改善するといっているところが無い、自分にあっているかといった振り返りをしてみる。(上の表の右2列)

- なくしたプリントを見つけるために、まずは机の整理が必要ということに気がついた
- 机を整理する方法を考えて週末に試し、それを次の週に振り返り改善し、また新しい方法を考えるというサイクルを繰り返した結果、机の整理ができた。



## 通級による指導実践事例 高等学校 No.2

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わりやすい説明のポイントを意識した話し方ができるようになる</li> <li>・長文を書くときにも伝わりやすい説明のポイントを意識することができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	2年次10月～3年次3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況を察することができず、トラブルのきっかけになる発言をしてしまうことがある</li> <li>・自分の思いを伝えることはできるが、興味・関心の強い細部から話そうとするので、相手に話の全体像がなかなか伝わらないことがある</li> <li>・検査では言語理解や概念化に弱さがあり、言葉の意味や使い方を知識としては理解しているが、書くときや話すときに間違えることがしばしばあり、事柄を関連付けることの苦手さがある</li> <li>・考えを長文にすることができず、「卒業研究」の単位取得に不安を感じている</li> <li>・卒業後の進路は、福祉的就労、障害者職業能力開発校、就労移行支援事業所を希望</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	環境の把握		感覚や認知の特性についての理解と対応	
	コミュニケーション		コミュニケーションの基礎的能力	
コミュニケーション		言語の受容と表出		
本事例のキーワード	コミュニケーション 話す 書く			

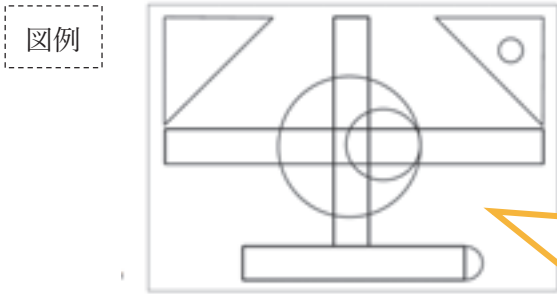
### 【指導の具体的な様子】

学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
<b>第一段階の目標</b> <b>説明方法による伝わり方の差や、考えを整理する方法を経験する</b> <b>①自分の説明方法の特徴を知る</b> ○図形伝達ゲーム【参考A】 ・自分の説明方法が、相手にどのように受け止められるかを知り、他のやり方と比較する <b>②カテゴリーに分類しながら考えをまとめる</b> ○情報整理ゲーム【参考B】 ・共通の特徴で分類しながら考えと整理しやすいことを体験する	<b>①について</b> ・説明者と聞き手の両方を体験し、どのような説明がわかりやすかったかを意見交換することで、聞き手の受け止めに差があることに気づかせる <b>②について</b> ・カテゴリーの立て方の重要性を強調しながら取り組ませる ・必要に応じて白紙の用紙や、情報の数に合わせた表を記載した用紙を渡し、情報を整理しやすいようにする	・自分がふだんの会話で、関心を持った細部から話し始めてしまうため、聞く方は全体像がつかめず困っていたということに気づけた ・「全体像から考える」とことと合わせて、「共通項でまとめる」という整理方法の重要性が確認できた ・情報量が多くなると共通項でまとめることが難しくなり、支援が必要である <b>【第二段階に向けて】</b> ・確認したポイントを身につけるための実践機会を設ける
<b>第二段階の目標</b> <b>「伝わりやすい説明のポイント」を意識して実践する①</b> <b>①実践Ⅰ</b> ・「卒業研究」で使用するアンケートを、全体や目的から話すことを心がけながら、通常の学級で依頼する <b>②実践Ⅱ</b> ・カードゲームのルールや進行について、「全体や目的から」「カテゴリーに分けて」話すことを心がけながら、10人程度の集団に説明する	<b>①について</b> ・事前に説明内容や手順を整理し、伝わりやすい説明のポイントが押さえられているか、確認させる ・通常の学級担任に課題のねらいを説明し、実践のポイントを理解してもらっておく <b>②について</b> ・文字を読むより、動画を見て理解する方が得意であることを生かして、まずルール説明の動画を見せ、ポイントを確認させる ・説明の流れを可視化するために、ワークシートを使用する【参考C】	・一番関心のある細部から話し始めてしまいそうになる気持ちを抑えて、全体や目的から話すことを意識して説明することができた ・ルール説明の動画が、カテゴリーごとに編集されているということに気づくことができ、それを参考に説明の構成をスムーズに組み立てることができた <b>【第三段階に向けて】</b> ・短い文章での説明では、伝わりやすさのポイントを押さえることができたので、今後はさらに長い文章に挑戦する
<b>第三段階の目標</b> <b>「伝わりやすい説明のポイント」を意識して実践する②</b> <b>実践Ⅲ</b> ・説明のポイントを押さえながら、卒業研究論文（5千字以上）の構成を考える	・はじめに書く内容をグルーピングして並べ、全体がひと目で分かる構成図を作成させる ・これまでの実践をいかすことを意識させる	・これまで学んだ説明のポイントに則って文章を組み立てようとする姿勢が定着した ・情報量が多くなると、ひとりで整理するのが難しい ・困ったときに、どこを支援してもらえば達成できるかを説明できるようになるのも、今後の課題である

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「難しそうだったけど、カテゴリーでやったらできた」「（見通しを持って書くことができ）早く字数が増えるようになった」など、構成図を元にすればひとりでも長文を書くことができるという自信を持つことができ、「全体から」「カテゴリーで」というキーワードだけで、前向きに取り組もうという姿勢を見せるようになった</li> </ul>
--

## 【参考A】（第一段階①）図形伝達ゲーム



### 課題

- 図形が複雑に組み合わさった図柄を、言葉だけで相手に伝達する

### 方法

- ①説明者と聞き手に役割分担する。
- ②説明者だけに図柄が書かれた用紙を渡し、最初は説明方法を指定せず自由に説明してもらおう。聞き手は、説明を元に図柄を書く
- ③2回目は図柄の細部から、3回目は図形の全体像（外枠）からそれぞれ説明してもらおう
- ④説明者と聞き手を交代して、②③を行う
- ⑤どの説明がわかりやすかったかを考え、意見交換を行う。

## 【参考B】（第一段階②）情報整理ゲーム

例

情報シート

この街には、花屋、八百屋、魚屋、病院、美

●●さんは花屋で、△△さんの隣に住んで

△△さんの趣味はテニスで、××さんの趣味は、テニス

○○さんの右隣に住んでいる人は、映画鑑賞が趣味である。

課題シート

1. △△さんの仕事は何か
2. ○○さんの趣味は何か
3. ▼▼さんの向いの人は誰か

- 断片的な情報が書かれた「情報シート」の情報を組み合わせて、「課題シート」に書かれた課題を解決する。
- 情報整理のために、白紙の用紙、あるいは、整理に必要な列数・行数で構成された表が記載された用紙を渡す。白紙より表のほうが見通しは立てやすい。

## 【参考C】（第二段階②）実践（わかりやすい説明のテンプレート）

人とのやり取りで説明しよう

説明：相手にわかりやすい説明のしかたを伝える  
→準備段階の共通にも使おう！

自分の説明：①「このやり取り」の目的をテンプレートを使い、説明の手順を伝える  
②カードゲームのルールを説明し、ゲームを行う  
③振り返り

振り返り：④「このやり取り」の振り返りシートを使い、振り返りを行う

全体一掃部

※カードゲームの説明手順を「ピラミッド形説明」で考えよう※

せりふ	
1	タイトル
2	目的・ゴール
3	要点
4	内容
5	結える・始める

- 「わかりやすい説明のテンプレート」を使い、説明手順を整理する
- できるだけ原稿を見ず、説明の流れを思い出しながら話せるよう、練習する

## 通級による指導実践事例 高等学校 No.3

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを論文などのまとまった文章にできる</li> <li>・論文などを作成するための、自分に合った方法を見つける</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	5月～7月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを正確にアウトプットすることに困難を感じており、特に書くことへの苦手意識が強い</li> <li>・他者との関わりに喜びを感じ、自分のことを積極的に伝えたい気持ちを持っている</li> <li>・聞いて理解することが得意であると自覚している</li> <li>・福祉分野での進学を志望しており、「書いて伝える」スキルを獲得したいと考えている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	環境の把握		感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動	
	コミュニケーション		コミュニケーション手段の選定と活用、状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	作文 聴覚優位 音声アプリ			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点(場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自分の考えを表す方法を探す</b> <u>①マインドマップを描く</u> ・テーマに沿って教員と会話しながら、マインドマップを作成する 【参考A】 <u>②伝えたい内容を整理する</u> ・①で作成したマインドマップを元に、自分が伝えたい順番に、キーワードを箇条書きにする 【参考B】 ・キーワードをもとに文章を構成する	<u>①②について</u> ・自分の考えをいきなり文章に起こすのではなく、「話す」、「キーワードをメモする」などのステップを設けることで、考えが整理できることに気づかせる	・話すことが好きなので、集中して取り組むことができた ・メモの文字が読みにくいこと、箇条書きしたキーワードを文章として構成しようとするとうまくできず、時間がかかってしまうことが課題である 【第二段階に向けて】 ・会話によって整理した内容を文章として表しやすくするために、機器の活用を検討する
	第二段階の目標 <b>自分の考えを表すのに適した方法を知る①</b> <u>実践Ⅰ「読書感想文を書く」</u> ・スマートフォンの音声入力アプリを活用し、400字程度で読書感想文を書く ・音声入力した内容が、自分が伝えなかった内容になっているかどうか、音読して確認する	・音声入力の練習を繰り返し、アプリの使いやすさや、継続使用できそうか確認する ・通常の学級でもスマートフォンを活用できるよう、授業担当者調整する	・音声入力アプリを使用することで、400字程度の文章を何度も作成できるようになった ・練習を繰り返すうちに、音声入力時に考えがより整理された状態で話せるようになった 【第三段階に向けて】 ・400字以上の文章を書けるようになるために、パソコンを使用して編集する
第三段階	第三段階の目標 <b>自分の考えを表すのに適した方法を知る②</b> <u>実践Ⅱ「論文を書く」</u> ・スマートフォンの音声入力アプリで入力した文をパソコンに送信し、編集して論文としての構成を整える	・内容ごとに段落をつけることに留意させる ・5W1Hの要素を入れて、具体的に書くよう促す ・文書化したものは、必ず読み返して確認させる ・通常の学級でもパソコンを活用できるよう、授業担当者調整する	・論文課題を約3000字まで完成させられた ・自分の気持ちや考えを表す方法として、音声入力アプリやパソコンの使用が効果的であると気づくことができた ・卒業後の進学先等で、文字入力機器の活用などの合理的配慮を求めていく力の育成が必要である

### 【通級指導の成果(生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できないことや苦手なことも、工夫しだいでできるようになることを実感した」と話し、「その工夫には自分の得意なことを生かすという方法があることがわかった」とふりかえった</li> <li>・さまざまなアプリケーションが、自分の困りごとの解決に役立つと知り、予定管理等にも活用するようになった。</li> <li>・この指導がきっかけとなり、他の生徒の論文作成等でも音声入力アプリが活用されるようになるなど、通常の学級での取組みに広がった</li> </ul>
--

【参考A】(第一段階①) マインドマップ

学校オリジナル教材 「発想のワークより」

**ねらい**

- 1つのテーマについて、自分の心の中を表現しながら整理する

**方法**

- ① 無地の紙を用意し、紙の中央にテーマを書く
- ② テーマから思いつくことを書き、テーマの周りに放射状に線を伸ばしてつなぐ
- ③ ②からさらに思いつくことを書いてつなげていき、イメージを膨らませる

【参考B】(第一段階②) 伝えたい内容を整理する

• マインドマップを元に、自分が伝えたいことについて、キーワードを箇条書きして整理



## 通級による指導実践事例 高等学校 No.4

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協力して目標を達成できる</li> <li>・他者の困りに共感し、自分の強みを生かしたサポートを考えることができる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	10月～12月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生になって人の気持ちをくみ取ろうとする意識が高まったこともあり、相手の気持ちや表情などを気にしすぎるなど、人間関係に敏感になっている</li> <li>・状況に応じたコミュニケーションが苦手で、幼少期より周囲との摩擦を繰り返し経験してきた</li> <li>・人間関係における不安や自信のなさが身体症状に表れることがある</li> <li>・困っている人を助けたり、積極的に手伝ったりすることがしたいと思っている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	ペア学習 相手のサポート 作業の見通し シミュレーション			

### 【指導の具体的な様子】



	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>作業の見通しをたてる</b> <b>①コンセプトを考え、相手に伝える</b> ・「友人を招待して食事会をする」をテーマに、どんな食事会をしたいか考え、ペアの生徒に伝える <b>②他者と協働して企画書を作成する</b> ・いつ、どこで、何を作るか、誰を招待するかなど、具体的な企画を練る ・食事会のメニューを調理する上で、期待することや不安に思うことをあげ、ペアで共有する【参考A】	<b>①②③について</b> ・「人の役に立ちたいとの気持ちが強い」という生徒の良さを生かすために、生徒2人を組ませてペアとし、協働する場面を設定する ・生徒が自分の思いを十分伝えられるよう、必要に応じて教員が掘り下げる質問を行う ・ペアの生徒の不安や課題に対し、自分がどんな補助をできるか考えさせる	・招待人数から準備物の量を計算し、ペアの生徒が作成したレシピを補完した ・相手の課題を理解し、「自分には何ができるか」という意識を持つことができた ・時間短縮のため「フードプロセッサーを使おう」と提案できた <b>【第二段階に向けて】</b> ・企画書の内容を実現させるために、タイムスケジュールを立て、シミュレーションを行う
	第二段階	第二段階の目標 <b>シミュレーションを行い、計画の見直しを考える</b> <b>①進行表を作る</b> ・食事会の準備から片付けまで、具体的な進行表を作る <b>②シミュレーションⅠ</b> ・あらかじめ難しそうなお作業箇所を予測して、対応を準備した上で、シミュレーションを行う <b>③計画の見直しを考える</b> ・計画と実施のギャップを埋めるために、進行表の修正を行う	<b>①について</b> ・当日の作業の見通しが立てられるよう、所要時間の目安を入れるなど、できるだけ詳細なスケジュールを考えさせる <b>②について</b> ・進行表は、作業中に確認しやすいように模造紙に大きく書く ・実施のシミュレーションを通して、作業が難しかったところや時間がかかったところをチェックさせるとともに、担当教員もメモしておく
第三段階		第三段階の目標 <b>他者に必要な声かけができる</b> <b>①修正した進行表を共有する</b> ・自分が見直した箇所や、困ったところをペアで共有する <b>②助けが必要なポイントを共有する</b> ・お互いに、どこでどんな助けがほしいか共有する <b>③シミュレーションⅡ</b> ・共有したポイントをふまえて、2回目のシミュレーションを行う	<b>①②について</b> ・(1)何が難しかったか、(2)どんなふうに助けてほしいか、というパターンで話すよう伝える ・担当教員が観察者として気づいたことをフィードバックする ・ペアの生徒の困りについて、どうしたらタイミングよく声かけできるか、考えさせる


### 【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の状況を考えて、調理が円滑に進むようなアイデアをたくさん提案することができた</li> <li>・「誰かを手伝うためにはよく観察することが大切」、「実際に行動するには心がけだけでは難しいが、何か合図があればできる」と気づくことができた</li> </ul>
--

【参考A】(第一段階②) 企画書

キ2回ライフスキル

**♡ ワッキング ♡**  

料理長   
サポーター

---



2019年 月 日 場所 調理室

作るもの

① \_\_\_\_\_

材料 (買うもの)




	量・数

② \_\_\_\_\_


材料 (買うもの) 予算 円以内

	量・数

どれからの時間か分かるかな?

買い物へ行く時間  
: ~ :












集合場所 

ワッキングモケ行う時間  
: ~ :

ゲストに来てもらう時間  
: ~

あとの時間終了

ゲストの名前

## 通級による指導実践事例 高等学校 No.5

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がどんな場面でどんな気持ちになるか、感情のレベルを認識する</li> <li>自分に合ったクールダウンの方法を学び、実践できるようになる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	8月～1月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>何事にも興味関心が高く、周囲の人と積極的に関わる姿勢が見られる</li> <li>暗黙の了解を理解することや、表情や身振りなどから相手の真意を読み取ることが難しい</li> <li>勝ち負けへのこだわりが強く、自分にとって不本意な結果に大きな不安やストレスを感じ、パニックを起こすことがある</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション	
本事例のキーワード	アンガーマネジメント コーピング			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自己理解を深める</b> <b>①今の自分を分析</b> ・「幸せを感じる時」「怒りを感じる時」を書き出し、どのような出来事と結びついているか整理する <b>②感情のメカニズムを理解する</b> ・ワークシートを使用して、自分がなぜそんな気持ちになるのか考える <b>【参考A】</b> <b>③感情のレベルを可視化</b> ・幸せと怒りをそれぞれ5段階に分け、対応する言葉や場面を考える <b>【参考B】</b>	<b>①について</b> ・怒りだけでなく、楽しいなどプラスの気持ちにも注目させる <b>②について</b> ・怒りの元となっている感情（悔しさ、焦り、劣等感、混乱など）に気づくことが、怒りのコントロールにつながることを伝える <b>③について</b> ・怒りにも段階があり、小さなものから爆発寸前のもので、自分がどれくらい自覚しているか（あるいは自覚していないか）を一緒に確認しておく	・感情をレベル分けすることにより、我慢できるレベルとパニックになりやすいレベルを客観的に確認することができた ・怒りの元となっている悔しさや不安などの具体的な感情を教員と共有することができた <b>【第二段階に向けて】</b> ・自分が怒りを感じやすい場面やきっかけに気づき、実際の日常生活で意識できるようになる
	第二段階の目標 <b>ストレスに応じた対処行動を考える</b> <b>①現在の対処行動を整理する</b> ・現在、自分がストレスを感じたときに行っている対処方法を振り返り、良い点、改善したい点を整理する <b>②よりよい対処行動を考える</b> ・ストレスレベルに応じて、自分に合った対処行動を考える	<b>①について</b> ・できるだけ最近起こった出来事を取り上げ、その時の気持ちや行動を具体的に思い出させる ・対処行動に対して、結果がどうなったかを必ず確認しておく <b>②について</b> ・第一段階で可視化した感情のグラフを活用し、レベルごとに異なる対処行動が考えられることに気づかせる	・はじめは、イライラした時は「無視する」「反論する」しか挙げられなかったが、感情のグラフに沿ってレベルごとに考えるうちに「保健室に行く」「絵を描いて気分転換する」「好きな感触のものに触れて気分を落ち着ける」など、複数の対処行動を考えることができた <b>【第三段階に向けて】</b> ・通常の学級での授業や集団活動で、自分の感情に気づき、感情レベルに応じた対処行動をとれるようになる
第三段階	第三段階の目標 <b>対処行動を実践する</b> <b>①実践Ⅰ</b> ・学校外（家庭など）におけるストレス場面に気づき、レベルに応じた対処行動を取り、結果を検証する <b>②実践Ⅱ</b> 学校生活におけるストレス場面に気づき、レベルに応じた対処行動を取り、結果を検証する	<b>①②について</b> ・通常の学級の担任、授業担当者、養護教諭、保護者等と情報共有し、本人が対処行動をとる様子を観察・報告してもらうように調整しておく ・生徒が対処行動を取った時には、結果に関わらず、対処行動を選択したこと自体を評価し、認める	・家庭におけるストレス場面に気づいて「ストレスを減らすための空間がほしい」と保護者に伝えることができ、そのための自分に合ったアイテム（室内用テント）を選択し、安心できる空間を作る工夫ができた ・通常の学級での授業においても、自分がストレスを感じる場面に早い段階で気づき、対処行動を取ることができた

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えた複数の対処行動を、通常の授業やクラス活動において、積極的に活用する様子が見られた</li> <li>自分が納得できない場面や、不本意な結果があっても、その場で感情を爆発させず、保健室や通級指導教室まで我慢するなど、自分で気持ちをコントロールする場面が増えた</li> <li>保健室を訪れた際、「ちょっと落ち着きたいので来ました」「もう大丈夫なので(教室に)帰ります」など、クールダウンの必要性の判断と報告を主体的に行うことが複数回あったと、養護教諭より報告があった</li> </ul>
---





## 通級による指導実践事例 高等学校 No.6

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者から見た自分の様子を知り、自分の行動の特徴に気づく</li> <li>・状況に応じた適切な声量調節ができるようになる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	8月～11月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目で素直な性格で、努力家である</li> <li>・周囲の人と積極的に関わる</li> <li>・他者の状況や心情を慮ることができず、自分中心な考えや発言になりがちである</li> <li>・状況に応じた声量の調節が難しい</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション		
本事例のキーワード	セルフモニタリング 声量調整			

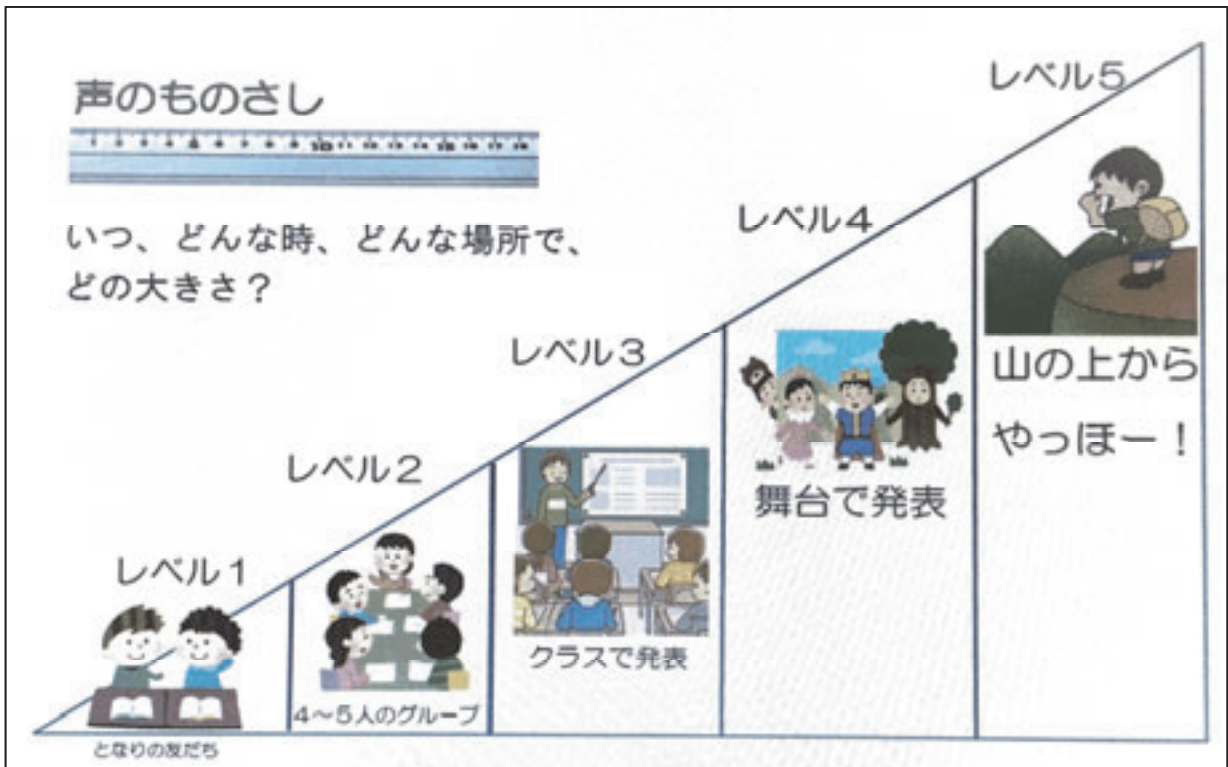
### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	<b>第一段階の目標</b> <b>自己理解を深める</b> <b>①他者から見た自分を知る（セルフモニタリング）</b> ・自分が会話しているさまざまな場面を動画撮影し、客観的に見る <b>②自分のコミュニケーションの特徴を理解する</b> ・動画を見て気づいたことをまとめ、良い点、改善したい点を明らかにする	<b>①について</b> ・動画の撮影は、日や場所、会話の相手などを変えて、できるだけ多くの活動の様子を記録しておく ・撮影することについて、通常の学級やクラブ活動等の担当教員とあらかじめ調整しておく <b>②について</b> ・声の大きさだけでなく、他者と話す時の視線、姿勢、身ぶりなどにも気づいた点がないか確認する	・自分の姿を客観的に見ることで、声の大きさだけでなく、不自然な動きや注意散漫な様子など、自分の無意識の行動にも気がつくことができた  <b>【第二段階に向けて】</b> ・自分の声量を知る機会を設ける ・客観的・視覚的に理解できるワークシートを用意する
	第二段階	<b>第二段階の目標</b> <b>声量を可視化し、体得する</b> <b>①場面に応じた適切な声量の理解</b> ・具体的な生活場面とそれに合った声の大きさをものさしで示す <b>【参考A】</b> ・日常生活の様々な場面を想定し、どのレベルがふさわしいかを考える <b>②声量をレベル別に練習</b> ・ものさし表の各レベルを意識しながら、声量調節を練習する ・実際の場面を想定し、ロールプレイを行う	<b>①②について</b> ・自分が普段よく使っている声量レベルが表で示すとどのレベルなのか確認させる ・具体的な生活場面を想定しやすいよう、イラストや写真など、視覚的な教材を複数用意しておく ・声のレベルを判断する際の手がかりとして、周囲の音や人の声の大きさ、場所の広さ、相手との距離などを意識させる
第三段階		<b>第三段階の目標</b> <b>日常場面での実践</b> <b>①グループワークⅠ（2人～4人）</b> ○通級指導教室での実践 ・グループで話し合いをする場面を作り、他の生徒からアドバイスやフィードバックをもらう <b>②グループワークⅡ</b> ○通常の学級での実践 ・ペアワーク、グループワーク、一斉授業など、それぞれの場面に適した適切な声量を用いる	<b>①について</b> ・グループの人数に応じた声量で話しているか確認させる ・他のメンバーからは、良かった点、改善点の両面からの意見をもらうようにする <b>②について</b> ・生徒の取組みを授業担当者等に周知して、通常の学級における様子を観察する際のポイントを示しておく、本人や通級担当者へフィードバックしてもらう

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】






<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室に入室する際、他の利用生徒のことを意識し、以前のような大きな声ではなく小さな声で養護教諭と会話することができた</li> <li>・他者の視点を意識するようになったことで、声の大きさだけでなく、「授業中の衝動的な発言が減ってきた」と授業担当教員より報告があった</li> </ul>
--

【参考A】（第二段階①）声のものさし



日常生活の様々な場面に当てはめてみよう。声レベルを判断する手がかりは何だろう？

声レベル	具体的な場所・場面
5	
4	
3	
2	
1	

<気づいたこと・考えたこと>

- 生活場面を示すイラスト等を複数用意しておき、レベルわけをする
- 声レベルを判断する手がかりを考える

通級による指導実践事例 高等学校 No.7

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場の状況に左右されずに、落ち着いて授業に取り組むことができる</li> <li>・気持ちが落ち着かないときは、自ら授業担当者等にそのことを伝えられるようになる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	3年	指導時期	4月～10月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「周りの生徒が怖い、嫌だ」などの独り言を大きな声で言うことがある</li> <li>・感情のコントロールが得意でなく、不快や怒りの感情を暴言や暴力で表してしまう</li> <li>・普段は、相手の年齢に関係なく誰に対しても言葉遣いが丁寧である</li> <li>・わからないことは必ず確認し、手順を守って物事を進めることができる</li> <li>・本人と保護者で希望する卒業後の進路が異なっており、ストレスを感じている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	心理的な安定		情緒の安定	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	身体の動き		姿勢の運動・動作の基本的技能	
本事例のキーワード	構造化 身体と心の関係 体力 集中力 コミュニケーション			

【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	<b>第一段階の目標</b> <b>自己理解を深める</b> <b>①自分と他者の感情を比較する</b> ・さまざまな感情について、自分が認識している感じ方と、一般的な定義とを比較する【参考A】 <b>②怒りを感じる場面を認識する</b> ・本人にとって最もコントロールしにくい感情である「怒り」の原因となる事柄をいくつか挙げる。 ・どういう「怒り」のときに暴言や暴力として表れてしまうのか考える	<b>①について</b> ・人によって感じ方に違いがあることに気づかせる ・自分が思う感じ方と一般的な定義が異なっている場合でも、合致させる必要があるのではなく、違いがあるのを知ることが大事だと伝える <b>②について</b> ・暴力や暴言に結びつく「怒り」の具体的な原因を意識させるために、学校生活での場面と気分(ストレス)との関連性を教員と共有する	・感情の定義がさまざまであることを認識できた ・暴言や暴力が出てしまう「怒り」のラインを感じ取り、その場面になったときにはどう対処すべきかを判断する必要があることを理解できた <b>【第二段階に向けて】</b> ・感情をコントロールする力を育成するために、呼吸や身体の動かし方からアプローチすることとし、体幹・筋力トレーニングを実施する
	第二段階	<b>第二段階の目標</b> <b>思い通りに体を動かすことができる</b> <b>①体幹トレーニング</b> ・バランスボール、ラダー、ミニハードル等を用い、自分の体の使い方を【参考B】 <b>②筋力トレーニング</b> ・体の各部位の力の入れ加減、強弱の感覚を学ぶ <b>③自分の体を意識する</b> ・自分の体に意識を集中することで、体幹が安定し、思い通りに体を動かせることに気づく	<b>①②について</b> ・できているところはその場ですぐ褒め、集中力を切らさないようにする ・1回のトレーニングには複数種目を組み入れ、合間に短い休憩をはさむことで、うまくできなくても切り替えてリスタートできる展開にする ・トレーニング内容は記録させ、クリアした証明となることを伝える <b>③について</b> ・(下層)呼吸→感覚→動き(姿勢)→言葉→学習・コミュニケーション(上層)へと、順に土台を固めていくことを意識させる
第三段階		<b>第三段階の目標</b> <b>困難に対し、最適な対応ができる</b> <b>①感情のコントロールを意識して、最適な対応を選択することができる</b> ・通常の学級において、忘れ物をした、思い通りの成績を残せなかった、他人からからかわれたなどの場面での対応を振り返る <b>②困難を他者に説明する</b> ・自分一人で対応できないときに、他者に困難な状況を説明する	<b>①について</b> ・生徒自身の振り返りに加え、教員から見た様子もフィードバックする ・最適な対応ができていない場合、どうすればよかったか、本人が納得できる答えを出せるよう、教員が援助する <b>②について</b> ・他者への説明方法は様々なパターンを経験させるが、可能な限り自分で対応してみるよう促す

【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りを感じる場面で、以前のように暴言や暴力でストレスを発散してその場を乗り切ろうとすることが激減した</li> <li>・トラブルが起こったときの状況を、自分自身で振り返り、教員に正確に説明することができるようになった</li> </ul>
--



【参考A】(第一段階①) 自分と他者の感情を比較する

感情	自分の感覚	一般的な感覚
喜び	嬉しいのを食っている時 相手が自分の思い通りな時	希望が達成した時や、嬉しいと感じた時の爽やかな気持ち
信頼	相手の交友関係を まかした時	心配するけれど、信じて安心できる気持ち
恐れ	相手がまくりがなくなったこと	凶悪や危険な事柄に対して 遠慮している気持ち
驚き	思いもよらない事が起こった時	予期しない事象を体験した時の 驚愕的な感情
悲しみ	人が死んだら	相手が死んだ時や、大切なものを失った時感じる痛み
嫉妬	限りなく相手の事が 羨ましいになる	憎み嫉み、不快に感じる気持ち
怒り	相手がゆるせない事を した時、思い通りと相手が 違っていた時	相手に対して傷つけたり、 時に死にたい衝動を感じる
期待(下期)	人は、うまいと 信じられるもののこと、	相手が自分の思い通りになることを望む気持ち

【参考B】(第二段階①) 体幹トレーニング





## 通級による指導実践事例 高等学校 No.8

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を深め、自分の良さや得意なことに気づく</li> <li>作業の手順などを他者にわかりやすく説明したり、主体的に声かけしたりできるようになる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	2年	指導時期	4月～10月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人前ではうつむいていることが多く、周りに聞こえるような声量で話すことはほとんどない</li> <li>クラスメイトに話しかけられても無反応なことが多い</li> <li>一人でゲームをしたり音楽を聴いたりしている事が多く、他者と関わりを持たずとしない</li> <li>気候に応じた服装をせず、1年中半袖のカッターシャツを着用している</li> <li>空間認知能力が極めて高く、物の配置等は先のことを考えて整理することができる</li> <li>手先が器用で細かい作業や集中力を必要とする作業が得意である</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整	
	人間関係の形成		集団への参加の基礎	
コミュニケーション		状況に応じたコミュニケーション		
本事例のキーワード	構造化 集中力 コミュニケーション			

### 【指導の具体的な様子】

	学習内容	指導上の留意点（場面・内容）	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>自己理解を深める</b> ①自分を分析する ・安心できる場所や人、不安に感じる場所や人などについて考える ②自分が不安になる状況を整理する ・いつ、どの様な状況だと不安に感じるようになるのか、具体的な場面をあげて整理する【参考A】 ③自分の得意なことを知る ・様々な体験を通し、自分の得意なものを見つける	<b>①②について</b> ・自分が不安になる場所や人をわかりやすくするため、図式化できるワークシートを用意する <b>③について</b> ・生徒自身が気づいていなかった良さも引き出せるよう、様々な分野での挑戦を体験させる	・状況を図式化することによって視覚的に自分の不安要素を知り、自己理解を深めることができた ・体を動かすことや指先が器用という自分の良さに気づいた ・他者とコミュニケーションがとれないことに対して、困難さを感じていないことが課題である
第二段階	第二段階の目標 <b>コミュニケーションスキルを学ぶ</b> ①実践Ⅰ「パラコードを編む」 【参考B】 ・パラコードを使った作品作りを実践し、やり方がわからないところを自分から質問する ②実践Ⅱ「パラコードの編み方を説明する①」 ・自分が安心して話せる教員に、パラコードの編み方を説明する	<b>①について</b> ・自分から声をかけることが出来たときはすぐにその場で褒める ・迷っているようであれば、どんな声かけの方法があるか具体例を示す <b>②について</b> ・本人が話しやすい学年の教員に教えられる役割を依頼し、通級指導教室で編み方を説明させる ・あらかじめ協力教員には、質問してほしいタイミングなどを伝える	・初めは、わからない時はどのように声をかけたらよいか困惑していたが、声かけの方法を伝えると自ら質問できるようになった ・初めて人に教えるということに緊張していたが、わかりやすく説明するために自分の作品を隣に持っていくなど、伝え方を工夫できた
第三段階	第三段階の目標 <b>コミュニケーションスキルを活用する</b> ①実践Ⅲ「パラコードの編み方を説明する②」 ・通常の学級の授業「海洋実習」において、講師としてクラスメイトにパラコードの編み方を説明する ・全体への説明の後、質問があった場合には個別に対応する	<b>①について</b> ・教室の前に出て注目を浴びながら説明することは難易度が高いため、生徒が編んでいる指先をカメラで投影し、授業担当教員が説明するという、スモールステップで実践する ・編み方がわからなくなったクラスメイトに対して個別に説明をするという場面を設定する ・必要に応じて、困っているクラスメイトを指し示し、側へ行って教えてあげるよう促す	・今まで話したことがないクラスメイトとも会話することができた ・クラスメイトから編み方や教え方を褒められることによって、自信をもつことができた ・次へのステップアップとして、11月に行われる文化祭で、本人にとって最も不得意である、面識のない人に編み方を伝えることに挑戦する機会を設ける

### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>成功体験を積んだことで、自信がついた様子が見られた</li> <li>コミュニケーションを図る場面では、相手の表情を見て話すことが出来るようになってきた</li> <li>通常の学級の授業においても、発問に対して聞こえる声量で積極的に答えることが出来るようになったと担当教員から報告があった</li> <li>自分の意見を伝えようとする意識が見られるようになったと担任から報告があった</li> </ul>
--

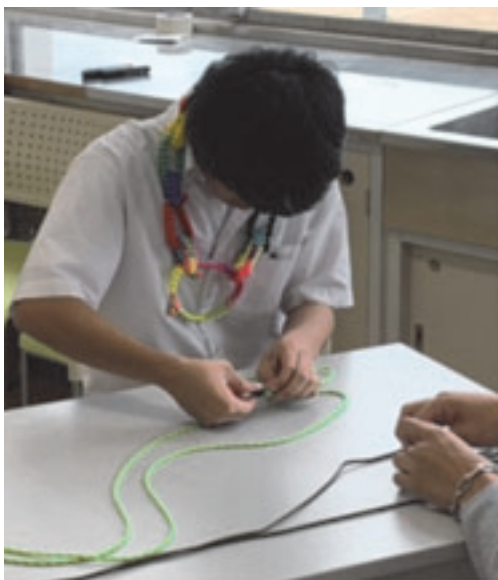
【参考A】(第一段階②) ワークシート (状況を図式化する)

会話不安レベルを書いてみましょう！

不安レベル	名前
<b>5</b> レベル5 不安(緊張)が強い (不安)	
<b>4</b> レベル4 不安(緊張)が強い (不安)	
<b>3</b> レベル3 不安(緊張)が強い (不安)	
<b>2</b> レベル2 不安(緊張)が強い (不安)	
<b>1</b> レベル1 不安(緊張)が強い (不安)	

• 会話する時に緊張する人や場面をあげる  
 他者が読むには困難なほど小さい字で記載  
 している

【参考B】(第二段階①) 実践1 (パラコードを編む)



## 通級による指導実践事例 高等学校 No.9

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション場面での自分の傾向を知り、自分の良いところに気づく</li> <li>・自分の意見を伝えることができるようになる</li> </ul>			
通級指導開始時における生徒の状況	学 年	2年	指導時期	4月～9月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の活動には積極的に参加するが、コミュニケーションに苦手意識があるために必要なやり取りができず、集団内での役割が十分に果たせないことがある</li> <li>・自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
	人間関係の形成		他者とのかかわりの基礎	
	コミュニケーション		言語の受容と表出	
本事例のキーワード	自己表出 自己肯定感 集団 グループワーク			

### 【指導の具体的な様子】

	学 習 内 容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第 一 段 階	第一段階の目標 <b>対人場面での自分の傾向に気付く</b> <b>①行動傾向・認知傾向を知る</b> ・自己理解のためのチェックリスト <b>②グループワークⅠ</b> (2人～4人) ・他者と協力して一つの絵を描く <b>【参考A】</b> <b>③グループワークⅡ</b> (2人～4人) ・コミュニケーションゲーム	<b>①について</b> ・対人場面での自分の傾向を客観的に見ることができるように、ソーシャルスキルや認知傾向といった観点で自分を振り返ることができるチェックリストを用意する <b>②③について</b> ・対人場面における自分の傾向に、体験を通して気づくことができるよう、グループワーク終了後に、「行動に対する気づき」「感情に対する気づき」を出し合う	・チェックリストの結果や、グループワークの中で、「人に対する信頼感が低い」、「期待される行動は分かっているが行動に移すことができない」といった自分の行動や考え方の傾向を整理することができた ・グループワークでは、自分の意見があっても黙って頷くことが多く、自分の意見や気持ちを表出することが課題として上がった <b>【第二段階に向けて】</b> ・「自分のよさ」に気づき、自信を持つ ・自分の意見を表出し、それが認められる経験を増やす
	第 二 段 階	第二段階の目標 <b>自分の良さに自信を持つことができる</b> <b>①グループワークⅢ</b> (2人～4人) ○コンセンサスゲーム <b>【参考B】</b> ・価値観の違いを知る ・集団における合意形成の経験 <b>②グループワークⅣ</b> (2人～4人) ○意思伝達ワーク <b>【参考C】</b>	<b>①②について</b> ・「聞き上手であること」に自信を持つことができるように、「聞き手の重要性」が実感できるワークを用意するとともに、ワークの最中やワーク後の振り返りの際に「聞き手の重要性」を言語化する ・発言への意欲を養うため、発言内容の良い部分をフィードバックするよう努める
第 三 段 階		第三段階の目標 <b>自分の良さを活用する</b> <b>①グループワークⅤ</b> (2人～4人) ・テーマに沿ったフリートーク <b>②グループワークⅥ</b> (2人～4人) ・互いの「良いところ」探し	<b>①について</b> ・「聞き上手」な面が発揮されるように、本人が共感をしやすいテーマを設定する <b>②について</b> ・自信を持って、自分の強みを説明できるよう、ワークの中で見つけた「自分のよいところ」や「仲間の良いところ」を言語化する

### 【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月以降、修学旅行のグループ活動をどうするかについて話し合った際には、自分のやりたいことをグループ内で発言し、仲間と意見を調整している様子が見られた</li> <li>・11月に行った三者懇談では、「修学旅行について班で話し合うのがすごく楽しい。今まで経験したことがない」という発言があった</li> </ul>
---

## 【参考A】（第一段階②） グループワーク（協力して絵を描く）



### 用意するもの

半分に切った模造紙・筆記用具

### 方法

- ①事前の相談や作画中の会話はなしで、お互いの行動や表情からお互いに何を考えているのかを読み取りながら、テーマのある一枚の絵を完成させる。（15分）
- ②もう一枚模造紙を配布し、別のテーマで、今度は自由に会話しながら描く（15分）
- ③振り返り
  - ・他人の言葉や動作に反応する自分の感情に気づく
  - ・感じた気持ちや自分の意見をどのような行動に繋げているか意識する
  - ・コミュニケーションの道具としての言葉、動作、表情などについて考える

## 【参考B】（第二段階①） グループワーク（価値観の違いと集団での合意形成）

### コンセンサスゲーム

- ・無人島に持っていくとしたら何？
- ・もしも魔法が使えたら？

### ねらい・留意点

- ・合意形成を行うためのコミュニケーションスキルについて学ぶ
- ・グループで考えることの良さに気付く
- ・安心して自分の意見が言えるよう、受容的な態度で話し合う

## 【参考C】（第二段階②） グループワーク（意思伝達ワーク）

### 意思伝達ゲーム

- ・描かれた図形を言葉だけで伝える
- ・言葉を使わずジェスチャーで伝える  
（一人で伝える／ペアで協力して伝える）

### ねらい・留意点

- ・コミュニケーションは、言語によるコミュニケーションと非言語コミュニケーションで成り立っており、両方をうまく使うことで豊富な情報をやり取りしているということを実感する
- ・言語によるコミュニケーションでは、話し手だけでなく、うまく聞きだそうとする聞き手の役割が大切であることを体感する



## 通級による指導実践事例 高等学校 No.10

個別の指導計画における短期目標	自分の苦手なことを知り、周りに援助を求めることができる		
通級指導開始時における生徒の状況	学 年	2 年	指導時期
	6 月～12 月		
関連する自立活動の内容	区 分		内 容
	健康の保持		障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること
	人間関係の形成		自己の理解と行動の調整に関すること
本事例のキーワード	自己理解 ヘルプメッセージ 合理的配慮		

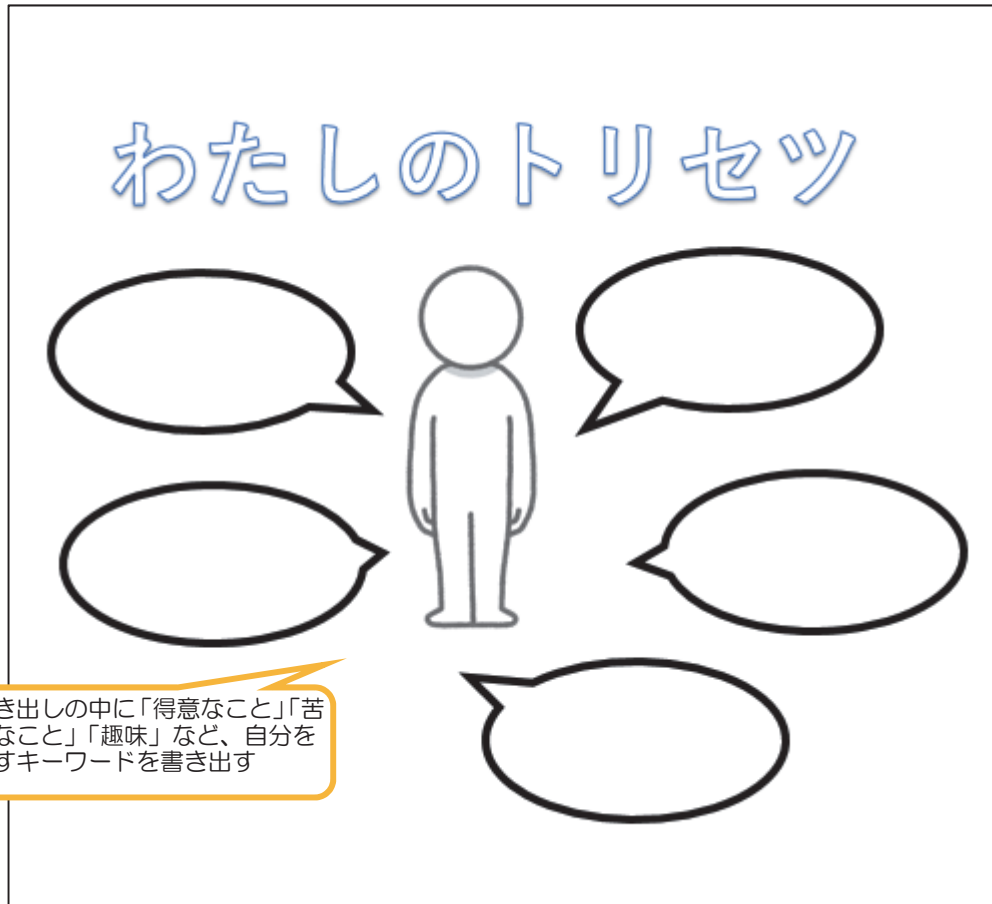
### 【指導の具体的な様子】

学 習 内 容		指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階にむけた取組
第一 段 階	第一段階の目標 <b>これまでの「自分」を知る</b> ①「わたしのトリセツ」 ・自画像を描いたワークシートに、「自分を表すキーワード」を記入する【参考A】 ②「カラーパワーグラフ」【参考B】 ・年表が記載されたワークシートを用いて、生まれてから今までの人生における気分の浮き沈みを、折れ線グラフで表す ・補足説明として、気になる出来事等をキーワードで加筆する	①②について ・教員も生徒と同じワークシートを使用して作業を行い、生徒が手順をイメージしやすいようにする ・通常の学級での支援の一助とするため、クラス担任と成果物を共有する	・気分が高揚した時や、焦ったときに感情のコントロールが難しくなるが、「友人から声をかけてもらえる」と気分が落ち着いた気がする」と気づきを言葉にした  ・「声をかけてもらうためには、自分のことを友人に知ってもらうことが必要である」と述べた  【第二段階に向けて】 ・自分のことを言葉で説明する ・教員以外の者（クラスの友人等）に自分の意見を表出する機会を設ける
	第二段階の目標 <b>身近な人と接する「自分」を知る</b> ①集団における「自分」を知る ○ジェスチャーゲーム（5人～10人） ・集団で盛り上がる状況において、自分がどのような様子（気分）になるのかを知る ②身近な人に「自分」を語る ・クラスやサークルの友人を相手に、「自分」を説明する機会を設ける	①について ・本人が話しやすいと感じる友人を含む数人を、通級指導教室に招く ・「気分が高揚した時の感情のコントロール」について、後日の振り返りの際に、自分の様子を客観的にみることができるよう、ビデオカメラ等で記録しておく  ②について ・本人だけでなく、参加者全員が発言するように促し、本人が発話しやすい雰囲気をつくる	・ジェスチャーゲームでは、感情のコントロールができない状況は発生しなかった ・友人に自分の苦手なことを伝え、友人から肯定的な言葉を受けたことで、「安心できた」と述べた  【第三段階に向けて】 ・身近な人に自分を伝えることができたため、初対面の人にも自分のことを伝える機会を設ける
第三 段 階	第三段階の目標 <b>初めての環境で「自分」を伝える</b> ①「わたしのトリセツ」の追記 ・第一段階で作成した「わたしのトリセツ」に、自分の「良いところ」や「苦手なこと」、「困ったときに助けてほしいこと」等を追記する ②「トリセツカードの活用」 ・カードを活用してもちあじを伝えながら、配慮してほしいことを相手に説明する	①について ・「他者に見せること」を意識した表現となるよう促す ・第一段階で作成した「わたしのトリセツ」と比較して、通級指導開始時点の自分とのちがいを意識させる  ②について ・次年度の新クラスや校外学習での挨拶など、今後、本人が経験する機会を想定して場面設定する	・通級による指導の開始時点の自分と比べて、「できること」、「やりたいこと」、「苦手なこと」を、明確かつ、より多く説明することができた  ・伝える相手（新年度のクラスの友人や、校外実習先の担当者）によって、「伝えるべき内容」や、「伝え方」に違いがあることに気づいた

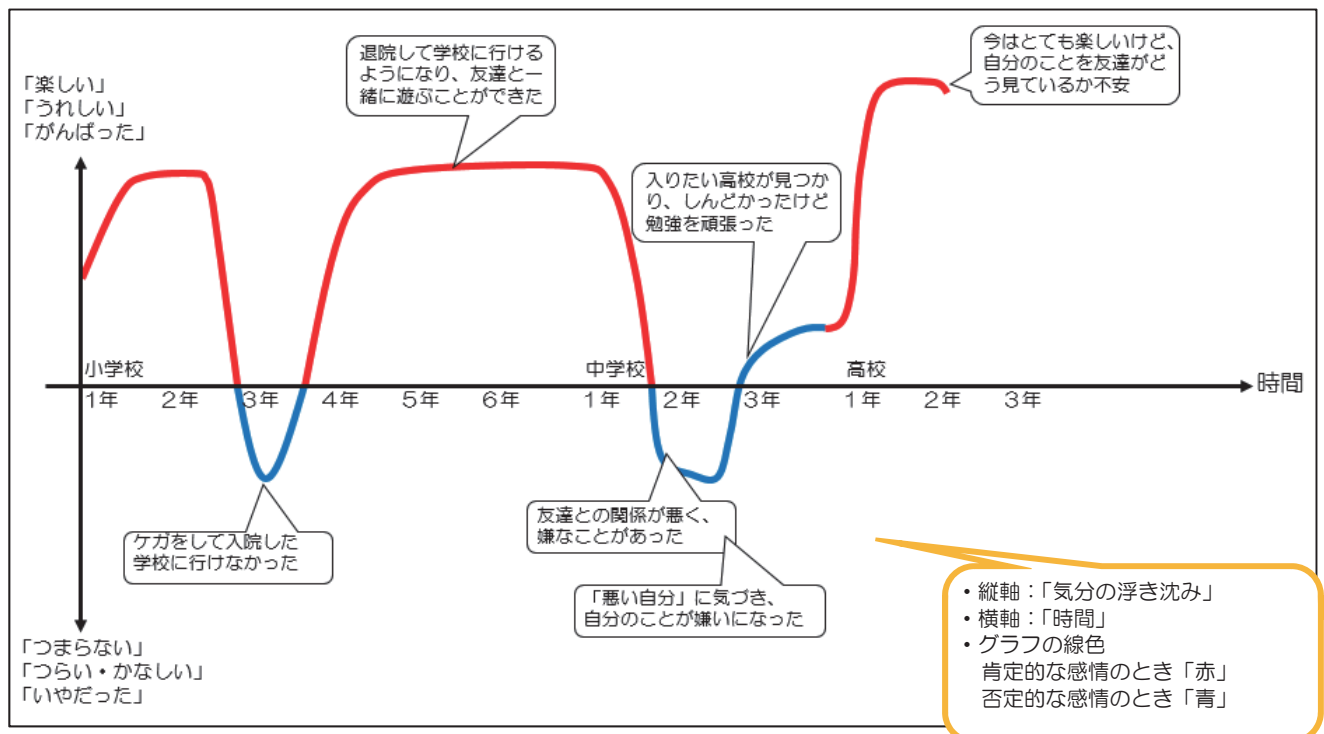
### 【通級指導の成果（生徒の変容）】

- ・対象生徒は、これまでの失敗経験から自分の特性について他者に知られたくないと言ってきた。しかし、失敗を防ぐためには周囲の協力が必要だと考えて校内外の発表活動に参加し、自身の特性や経験について他者に語るようになった
- ・他者に開示することで適切な支援が受けられることを学び、自分について他者に伝える意欲が高まった。段階を経るに連れて本人が「自分のことを知ってほしい」対象として列挙する人が身近な人からそうでないひとへと広がった

【参考A】（第一段階①） わたしのトリセツ



【参考B】（第一段階②） カラーパワーグラフ



## 通級による指導実践事例 高等学校 No.11

個別の指導計画における短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動に優先順位をつける際の基準を意識できる</li> <li>・自分に合ったスケジュール管理の方法を見つけて継続する</li> </ul>			
通級による指導開始時における生徒の状況	学年	2年	指導時期	10月～3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を字義通りに受け取ってしまう傾向があり、相手の意図や真意を汲み取れない時がある</li> <li>・持ち物、時間、スケジュールの管理が難しい。自分の状況に即したスケジュールを組むことが苦手で、生活がうまく回らなくなることがある</li> <li>・各教科の定期考査の結果からは、学習上のつまずきはみられない</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	健康の保持		生活のリズムや生活習慣の形成	
	心理的な安定		状況の理解と変化への対応	
本事例のキーワード	優先順位 スケジュール管理 忘れ物			

### 【指導の具体的な様子】

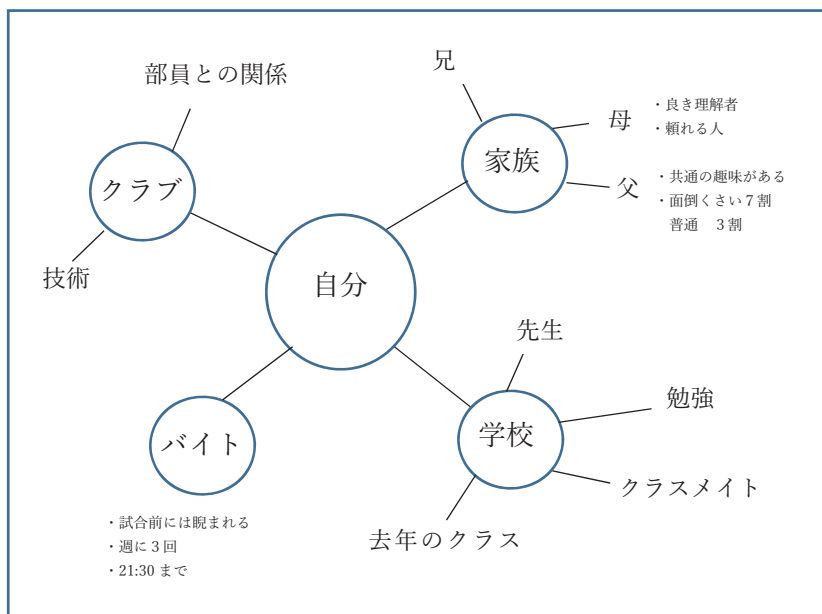
	学習内容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	第一段階の目標 <b>生活の可視化</b> ①自分関連図 ・自分がつながっている社会を図式化する【参考A】 ②1日(24時間)の行動 ・行動に費やす時間の確認 ・24時間テーブルの作成【参考B】 ③授業に必要なものを書き出そう ・時間割表に各教科の授業で必要なもの(及び課題の有無)を記入する【参考C】	<b>①②について</b> ・自分が関わっている場と、そこでの行動を個々に考えるのではなく、1日のつながりの中で捉えるよう示す <b>③について</b> ・授業に必要なものや提出物の有無を明記し、できていることと、できていないことを明確にすることで、自分の傾向に気づくよう促す	・24時間テーブルにより、1日の予定をつめこみすぎていることに気づき、今の自分に必要なことを取捨選択する必要を自覚できた ・授業に必要なものを書き出すことにより、「忘れ物が多い教科」、「忘れ物がない教科」があり、その原因を考察することができた <b>【第二段階に向けて】</b> ・自分にとって実行可能なスケジュールを立てることや、スケジュール管理の方法を考えることが、これからの学習課題である
	第二段階	第二段階の目標 <b>スケジュールを立てるコツを知る</b> ①グループワーク(2人～4人) ・情報整理ワーク ・手順を考えるワーク【参考D】 ②スケジュール作りのワーク ・アルバイトを辞めるまで ・受験カレンダー作り ・冬休みの旅行の行程	<b>①について</b> ・情報の整理の仕方について、様々な方法があることを知るために、グループ学習で行う <b>②について</b> ・日常生活で実際にスケジュールを立てる力に繋げるために、実例を用いてスケジュールを立てる練習を行う
第三段階		第三段階の目標 <b>スケジュールの管理方法を決めて実践する</b> ①様々なスケジュール管理ツールを使ってみる ②提出物を期限どおりに提出するためのアイデアを出す	<b>①について</b> ・スケジュール管理の方法について、いくつか例示し、生徒が興味を示した方法で取組む <b>②について</b> ・提出物の期限を守るために、課題内容と提出期限という2つの要素を管理するのだということを意識させる

### 【通級による指導の成果(生徒の変容)】

- ・スケジュールの詰め込み過ぎで回らなくなっていた日常であったが、行動の取捨選択を考えられるようになったことで、余裕をもって毎日を送ることができるようになった
- ・スケジュールを管理することで、課題などの提出をあきらめずに最後までやり遂げようとする意欲が見られるようになった



### 【参考A】(第一段階①) 自分関連図



それぞれの場に関連するイメージを、広げていきながら書く

### 【参考B】(第一段階②) 24時間テーブル

5:00	
6:00	
7:00	起床・準備
8:00	登校
9:00	授業
10:00	

①平日 (アルバイトのある日)  
②平日 (アルバイトのない日)  
③土曜日  
④日曜日  
の4つのパターンで書く

### 【参考C】(第一段階③) 授業に必要なものを書き出そう

時間割					
	月	火	水	木	金
1	LST	現代文	日本史	化学	古典
プリント 提出物	×	○ ノート	×	○ ファイル	○ ファイル
2	LST	古典	日本史	現代文	化学
プリント 提出物	×	○ ファイル	×	○ ノート	○ ファイル
3	小論文	協働	実用書	英語	体育

・教科ごとにプリントや提出物のあるなしを記入  
・プリントや提出物がある教科の中でも、忘れ物がある教科と忘れ物がない教科とに分かれたので、忘れる原因と忘れるタイミングについて考え、対策を考える

### 【参考D】(第二段階①) グループワーク (手順を考えるワーク)

- ・買い物の手順を考える。どういう順番で買い物をすれば効率的か。
- ・海外旅行のプランニング。どういう順番で観光地を巡るのがよいか。
- ・限られた時間でできるだけたくさんの葉を作ろう。

・どういう意図があってその手順で行ったかを、それぞれが説明し、お互いのよいところを学び合う

通級による指導実践事例 高等学校 No.12

個別の指導計画における短期目標	身近な友達や教員に自分の気持ちを示す			
通級指導開始時における生徒の状況	学年	2年	指導時期	2学期
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとの自分の気持ちを振り返ってまとめることが難しく、感想を述べたり、作文を書いたりすることに苦手意識がある</li> <li>・他者とのコミュニケーションが苦手で、自分から関わりを求めることが難しいが、集団の中では、自分のペースで過ごすことができている</li> <li>・卒業後は4年制大学への進学を希望している</li> </ul>			
関連する自立活動の内容	区 分		内 容	
	健康の保持		障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	
	人間関係の形成		他者とのかかわりの基礎に関すること	
本事例のキーワード	コミュニケーション 他者とのかかわり			

【指導の具体的な様子】

	学 習 内 容	指導上の留意点 (場面・内容)	成果・課題・次段階に向けた取組
第一段階	<p>第一段階の目標</p> <p><b>感情を頼りに出来事を整理する</b></p> <p>①「感情」から出来事を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情を表す言葉をもとに、学校生活における出来事を連想する</li> <li>・出来事に関わりのあった友達や教員を連想する</li> </ul> <p>②日常生活での他者との関わりに気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員との対話を通して、①で整理した出来事で「今、落ち着いて考えたら気づいたこと」を考える</li> </ul>	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情を表すキーワードは生徒が考えたものを使う</li> </ul> <p>①②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員も生徒と一緒に出来事の連想に取り組む</li> <li>・生徒が発言するときは、教員は傾聴し、生徒の言葉を肯定的に受け止めるように心がける</li> <li>・ワークシートに生徒のこぼを書き出し、生徒がこぼに詰まったときには教員が質問を投げかける形式で対話を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①について、感情を表すキーワードがなかなか思い浮かばなかった</li> <li>・「楽しい」「悲しい」「悔しい」などのキーワードをカードに書いて選択させると、関連する出来事を具体的に話すことができた</li> <li>・②について、自分が困っているときに友達関わってくれたことに気づき「うれしかった」と自分の気持ちを述べた</li> </ul> <p>【第二段階に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「困っているときに友達関わってくれた」という気づきを捉え、他者に気持ちを伝えることを見すえて指導を行う</li> </ul>
	第二段階	<p>第二段階の目標</p> <p><b>身近な人間関係を把握する</b></p> <p>①学校生活における友達とのかかわりを整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活で、どのような場面に、どんな友達と関わっているのかを把握する</li> </ul> <p>②困ったときにはどうしたらいいかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことがあって戸惑ったときに、どんなヘルプメッセージを発するとよいかを考える</li> </ul>	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの授業や部活動等での周りの生徒とのかかわりを、通常学級の授業担当者と連携して把握する</li> <li>・本人のこぼを基本に、教員が普段の様子について補足しながらワークシートに書き出す</li> </ul> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学校生活で困ったことを思い出して挙げる</li> <li>・ヘルプメッセージの発し方について、授業の場面や、人数規模などをふまえた対応方法を考える</li> </ul>
第三段階		<p>第三段階の目標</p> <p><b>相手に気持ちや考えを伝える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級における出来事を「誰と」「何をして」「どんな気持ちになって」「どのように伝えた」という観点で振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が苦手に思っていることや、通級による指導をとおして学習した「ヘルプメッセージの発し方」を学年団の教員で共有する</li> <li>・通常の学級や部活動等での生徒の様子を担任・授業担当者と通級による指導担当教員で共有する</li> <li>・通常の学級での出来事等を振り返り、できたことや、次の機会に頑張ることをワークシートに記録する</li> </ul>

【通級指導の成果 (生徒の変容)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人もがんばれたという達成感を得ている。「自分から」友達のところへ昼食を食べに行くことができたといった自発的な行動に繋がってきている</li> <li>・通常の学級や、部活動担当者、周囲の友達から「以前よりも笑顔や反応が増えた」という報告があった</li> </ul>
--

文部科学省委託 2019年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業)

【拠点校一覧】

中学校	高等学校
高槻市立如是中学校	大阪府立柴島高等学校
四條畷市立四條畷西中学校	大阪府立大手前高等学校
松原市立松原第六中学校	大阪府立松原高等学校
岸和田市立春木中学校	大阪府立岬高等学校



大阪府

教育庁教育振興室支援教育課

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目

TEL06(6941)0351

令和2年3月発行